

弘前大学農学生命科学部

研 究 業 績 目 録

2006年10月－2007年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
2006 (October) – 2007 (September)

弘前大学農学生命科学部

2007年12月

Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
Hirosaki 036-8561, Japan
December, 2007

は し が き

本号の「研究業績目録」には、2006年10月から2007年9月までの業績を掲載しました。

業績の区分は、a-研究論文、b-学術図書、c-その他の著書・訳書、d-学会発表、e-調査・実験報告書、f-その他とし、各自の申請にもとづいています。

各講座の教員組織（2007年10月1日現在）は以下の通りですが、研究業績目録は各学科・講座あるいは研究室でとりまとめて掲載してあります。

生物機能科学科

（生命理学講座）

鮫島正純，黒尾正樹，松岡教理，福澤雅志

（遺伝情報科学講座）

小原良孝，石田幸子，原田竹雄，石川隆二，吉田 渉

（植物エネルギー工学講座）

青山正和，葛西身延，齊藤 寛，千田峰生，大河 浩

応用生命工学科

（生体機能工学講座）

戸羽隆宏，殿内暁夫，柏木明子

（生体情報工学講座）

宮入一夫，橋本 勝，姫野俵太，牛田千里，高田 晃

（細胞工学講座）

片方陽太郎，大町鉄雄，菊池英明，石黒誠一，吉田 孝，畠山幸紀

生物生産科学科

（園芸学講座）

荒川 修，浅田武典，張 樹槐，本多和茂

（農業生産学講座）

鈴木裕之，杉山修一，松山信彦，松崎正敏，福地 博

（環境生物学講座）

佐原雄二，比留間潔，佐野輝男，城田安幸，東 信行，田中和明，藤田 隆

地域環境科学科

（地域環境工学講座）

万木正弘，工藤 明，佐々木長市，泉 完，萩原 守，角野三好，加藤 幸

（地域環境計画学講座）

谷口 建，高橋照夫，桧垣大助，藤崎浩幸

（地域資源経営学講座）

高橋秀直，宇野忠義，神田健策，澁谷長生，武田共治，泉谷眞実

生物共生教育研究センター

澁谷長生（併任），塩崎雄之助，村山成治，伊藤大雄

目 次

| | |
|--------------------|----|
| 生物機能科学科 | 35 |
| 生命理学講座 | 35 |
| 遺伝情報科学講座 | 35 |
| 植物エネルギー工学講座 | 37 |
| 応用生命工学科 | 39 |
| 生体機能工学講座 | 39 |
| 生体情報工学講座 | 40 |
| 細胞工学講座 | 43 |
| 生物生産科学科 | 45 |
| 園芸学講座 | 45 |
| 農業生産学講座 | 46 |
| 環境生物学講座 | 48 |
| 地域環境科学科 | 52 |
| 地域環境工学講座 | 52 |
| 地域環境計画学講座 | 53 |
| 地域資源経営学講座 | 53 |
| 生物共生教育研究センター | 56 |

業 績 目 録

生 物 機 能 科 学 科

生命理学講座

- a-01. Inuma, M., Y. Obara, M. Kuro-o: The delayed quinacrine mustard fluorescence from the C-blocks of *Apodemus argenteus* is due to the introduction of nicks into the DNA. *Zool. Sci.*, **24**: 588-595, 2007.
- a-02. Matsuoka, N., Y. Yanagino: Genetic distance between population of the cyprinid fish *Tribolodon hakonensis*. *Bull.Fac.Agric.& Life Sci. Hirosaki Univ.* **9**: 1-7, 2006.
- a-03. Matsuoka, N: Phylogenetic relationships of four families of the Asteroidea based on allozyme. *Bull. Fac. Agric. & Life Sci. Hirosaki Univ.* **9**: 8-14, 2006.
- a-04. 松岡教理: 進化学について(3). 蒲生野, 38: 110-118 (2006)
- d-01. 高嶋一登*, 釜道紀浩*, 八木 透**, 黒尾正樹, 向井利春*: IPMCの生体適合性. ロボティクス・メカトロニクス講演会2007 (ROBOMECH 2007 in AKITA), 2007. (*理研・バイオ・メテックコントロール研究センター, **東工大院・情報理工学研究科)
- d-02. 西井友教・鯨島正純・福澤雅志: 細胞性粘菌の胞子特異的レクチンの機能解析. 第9回細胞性粘菌研究会(富山大学), 2007.
- d-03. 佐々木和也***, 西島隆明***, 本多和茂, 嵯峨紘一, 鯨島正純: シネンシス系デルフィニウムにおける昼夜温度差による茎伸長制御には内生ジベレリンが関与している日本植物学会東北支部第19回青森大会(弘前大学), 2006. (*岩手大院連合農学研究科, **青森農林総研フラワーセ, ***農研機構花き研)
- d-04. 高畑恵介, 渋谷美緒, 鯨島正純: 宇宙生物学のモデルとしての細胞性粘菌. 第9回細胞性粘菌研究会(富山大学), 2007.
- d-05. 鯨島正純: 凍結技法におけるトラブルシューティング. 日本顕微鏡学会第63回学術講演会チュートリアル.(新潟), 2007.
- d-06. 荻野陽文, 生田あけみ, 渋谷美緒, 北村八重, 鯨島正純: サクラおよびリンゴ花芽の休眠に関わる蛋白質の検索. 日本植物学会第71回大会(野田) 2007.
- d-07. 成田麻実, 高畑恵介, 渋谷美緒, 鯨島正純: 細胞性粘菌は宇宙生物学のモデル生物として有用である. 日本植物学会第71回大会(野田) 2007.
- d-08. 佐々木和也***, 初山慶道***, 本多和茂, 嵯峨紘一, 鯨島正純: シネンシス系デルフィニウムの抽苔とLEAFY遺伝子発現の関連性. 園芸学会平成19年度秋季大会(高松), 2007. (*岩手大院連合農学研究科・**青森農林総研フラワーセ, ***青森総農研グリーンバイオ)
- f-01. Inuma, M., Y. Obara, M. Kuro-o: Causation of delayed QM-fluorescence in the C-blocks of *Apodemus argenteus* - Structural changes of C-heterochromatic DNA. *Chromosome Sci.* **9**: 20, 2006.
- f-02. Nakata, A.*, A. Yoshimura**, M. Yoshida*, M. Kuro-o, Y. Obara: Molecular characterization and chromosomal distribution of short interspersed nuclear elements(SINEs)like sequences isolated from the greater Japanese shrew-mole (*Urotrichus talpoides*). *Chromosome Sci.*, **9**: 29, 2006. (*Department of Dose Assessment, National Institute of Radiological Science, **Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University)
- f-03. Takashima, K.*, N. Kamamichi*, T. Yagi**, M. Kuro-o, T. Mukai*: Biocompatibility of IPMC. Proceeding of the 2007 JSME Conference on Robotics and Mechatronics, 2007. (*Bio-Mimetic Control Research Center, RIKEN, **Graduate School of Information Science and Engineering, Tokyo Institute of Technology)

遺伝情報科学講座

- a-01. Wang A, Tan D, Takahashi A*, Harada T. MdERFs, two ethylene response factors involved in apple fruit ripening. *J. Exp. Bot.* (in press) (*Kuji Agricultural Information Center)
- a-02. Kudo H*, Harada T: A graft-transmissible RNA from tomato rootstock changes leaf morphology of potato scion. *HortScience* **42**: 225-226 (2007) (*Graduate School of Nagoya Univ.)
- a-03. Inuma, M., Y. Obara, M. Kuro-o: The delayed quinacrine mustard fluorescence from the C-blocks of *Apodemus*

argenteus is due to the introduction of nicks into the DNA. Zool. Sci., **24**: 588-595, 2007.

- a-04. 吉田 渉, 大中臣哲也, 石田幸子. マナマコ複合盤状体骨片の成長と体長との関係. 弘前大学農学生命科学部学術報告 **9**: 15-20, 2006.
- d-01. 浦野宗行・原田竹雄 リンゴCyclic Nucleotide-Gated ion Chaneel 遺伝子単離と発現解析 園芸学研究 6 (別2): 429
- d-02. 山懸順子・深澤 (赤田) 朝子*・原田竹雄 リンゴACC・合成酵素遺伝子MdACS 3の構造と発現に関する研究 園芸学研究 6 (別2): 429 (*青森県りんご試)
- d-03. 王 愛徳・原田竹雄 リンゴ‘ふじ’と‘ふじ’枝変わり品種の日持ち性の違いに関する分子機構 園芸学研究 6 (別2): 428
- d-04. 原田竹雄・江面 浩*. エチレン: その生理機作と育種における研究の現状 日本育種学会シンポジウム (山形大学) 育種学研究9 (別2: 23-30 (*筑波大学)
- d-05. 荒谷陽介・原田竹雄 DELLAドメイン欠失遺伝子導入個体の表現型解析 東北育種談話会 (秋田県立大学)
- d-06. 浦野宗行・原田竹雄 リンゴCyclic Nucleotide-Gaed ion Channel遺伝子単離と発現解析 育種学研究9 (別1): 307 (茨城大学)
- d-07. 山懸順子・佐藤 耕*・原田竹雄 リンゴ果実成熟を開始させるMdACS3について 育種学研究9 (別1): 306 (茨城大学) (*青森県グリーンバイオセンター)
- d-08. 王 愛徳・原田竹雄 リンゴ‘ふじ’と‘ふじ’枝変わり品種の日持ち性の違いに関する研究 育種学研究9 (別1): 305 (茨城大学)
- d-09. 工藤久幸*・原田竹雄 GAI (GIBBERELLIC ACID-INSENSITIVE) mRNAの篩部を介した長距離輸送の解析 日本分子生物学会 (名古屋) (*名古屋大学大学院)
- d-10. 工藤久幸*・原田竹雄 リンゴにおけるGAI転写物の篩管内長距離輸送について 果樹バイテク研究会 (安芸津) (*名古屋大学大学院)
- d-11. 王 愛徳・原田竹雄 リンゴ‘ふじ’と‘ふじ’枝変わり品種の日持ち性の違いに関する研究 果樹バイテク研究会 (安芸津)
- d-12. 原田竹雄 りんご台木からの遺伝情報の長距離輸送について. 2006日中りんご産業技術交流フォーラム IN HIROSAKI d-14.石川隆二・佐藤洋一郎*・Steven Weber**・王巍***・湯陵華****:
- d-13. 青森県教育委員会 三内丸山遺跡総合研究「北の谷遺物による縄文環境と植物利用の解析」 2007. (*総合地球科学研究所, **ワシントン州立大学, ***中国社会科学院考古学研究所, ****江蘇省農業科学院糧食研究所)
- d-14. 石川隆二・今井克則*・永井啓祐**・村井正之***: 葉耳退化・半矮性型赤毛変異体の遺伝解析. イネ分子遺伝学ワークショップ (名古屋大学) 2007. *岩手大学大学院連合農学研究科, **名古屋大学, ***高知大学農学部)
- d-15. 石川隆二・今井克則*・田村優佳・竹村敦子・永井啓介**: 赤毛自殖系統の突然変異から生じた新たな半矮性遺伝資源: 葉耳退化型・半矮性変異体 (das) の解析. 日本育種学会第112回講演会 (山形大学) 2007. (*岩手連大, **名大生物機能)
- d-16. 今井克則*・千葉悠貴・石川隆二: 赤毛を利用した高頻度変異体作出系と変異の特徴について. イネ分子遺伝学ワークショップ (名古屋大学) 2007. (*岩手大学大学院連合農学研究科)
- d-17. 今井克則*・石川隆二: 赤毛を利用した高頻度変異体作出系と変異の特徴について. 東北育種研究会 (秋田大学) 2007. (*岩大連合農学研究科)
- d-18. 川崎顕子・牛木 純・酒井長雄・手塚光明・石川隆二: 東アジアにおける雑草イネの遺伝的解析. 日本育種学会第111回講演会 (茨城大学) 2007. (*中央農研センター, **長野県農政部, ***長野県農事試)
- d-19. 千葉悠貴・今井克則*・千葉あや乃・石川隆二: イネの小穂における貫生現象を制御する突然変異遺伝子の解析. 日本育種学会第111回講演会 (茨城大学) 2007. (*岩手連大)
- d-20. 本間照久, 永井啓祐*, 石川隆二・佐藤洋一郎**・佐藤雅志***・中村郁郎****・Leng Lay Hout*****・Khun Leang Hak*****・Sakhan Sophany*****・Men Sarom*****: カンボジアのイネ遺伝資源調査. 日本育種学会第111回講演会 (茨城大学) 2007. (*名大生物機能, **地球総合研究所, ***東北大生命科学, ****千葉大自然科学, *****カンボジア農業ならびに開発研究所)
- d-21. 本間照久・永井啓祐*・石川隆二・佐藤洋一郎**・佐藤雅志***・中村郁郎****・Leng Lay Hout*****・Khun Leang Hak*****・Sakhan Sophany*****・Men Sarom*****: カンボジアイネ在来種の遺伝的多様性. 東北育種研究会 (秋田大学) 2007. (*名大生物機能, **地球総合研究所, ***東北大生命科学, ****千葉大自然科学, *****カンボジア農業ならびに開発研究所)
- d-22. Ishikawa, R., T. Honma, and K. Imai*: Differentiated chromosomal segments selected by domestication or

- adaptation. Speciation and Adaptation-ecological genomics of model organisms and beyond-The 5th conference, OBC, Tumagoi, March 11-16, 2007. (*岩手連大)
- d-23. Ishikawa, R. : Probable artificial selection for edible plants at prehistoric Jomon site, Sannai Maruyama. Society of Ethnobiology 30th Annual Conference, University of California-Berkeley March 28-31, 2007.
- d-24. 井沼道子・小原良孝：ヒメネズミ C- ヘテロクロマチンの QM 蛍光遅延における染色体タンパク質の関与. 2006 年度 (第 57 回) 染色体学会年会 (千葉大学) 2006.
- d-25. 京谷恭弘・小原良孝・関島恒夫*：環境汚染の遺伝的影響評価におけるアカネズミ (*Apodemus speciosus*) の有用性. 日本哺乳類学会 2007 年度大会 (東京農工大学) 2007. (*新潟大学大学院自然科学研究科)
- d-26. 吉田 渉・石田幸子：ナマコ Hox 遺伝子発現抑制による形態形成機構解析. 日本動物学会東北支部大会 (秋田市) 2007.
- d-27. 岡野大輔・吉田 渉・石田幸子：ビスフェノール A 投与ナミウズムシにおける再生抑制. 日本動物学会東北支部大会 (秋田市) 2007.
- d-28. 福島 誠・船曳郁美・長田恭一*・橋爪 力**・吉田 渉・石田幸子：日本動物学会 78 回大会 (弘前大学) 2007. (*現明治大学, **岩手大)
- e-01. リンゴ「ふじ」と芽条変異体「弘前ふじ」の日持ち性の違いに関する分子機構. 平成 17 年度～平成 18 年度科学研究費補助金 (基盤(C)) 研究成果報告書
- e-02. 小原良孝：青森県におけるニホンザルの現況. 希少野生生物保護・保全対策報告書—青森県の希少野生生物の生息状況と保護・保全活動の実例—. p13-16. 青森県 2007.
- f-01. 石川隆二：縄文農耕を考える (対談集). 縄文ファイル 133, pp4-7, 2006, NPO 法人三内丸山縄文発信の会, 青森.
- f-02. 小原良孝：白神のけものと小動物たち～両生類・爬虫類・哺乳類～. 白神公開講座, 弘前大学総合文化祭, 2006.
- f-03. 吉田 渉：蓬田村地域活性化研究会「蓬田産ナマコの特長について」 蓬田村 2007.
- f-04. 吉田 渉：第 1 回ナマコフォーラム 「中国のナマコ増養殖事情」 青森市 2007.
- f-05. 吉田 渉：日本の海産研究 —青森県事例— 青森農業大学 講義 2007.
- f-06. 吉田 渉：あおり一押し 技術シーズ 「ナマコの人工飼育」 東奥日報 2007 年 7 月 29 日
- f-07. 吉田 渉・石田幸子：研究室紹介 第 14 回臨海若手の会要旨集 pp9 東北大学浅虫臨海実験所 2007.
- f-08. 福島 誠・岡野大輔・辻 大祐・川口聖司・石田幸子：ブラナリア 7 種を比較してみよう. (社)日本動物学会 第 78 回弘前大会特別企画「動物学ひろば」 pp3 弘前大学 2007.

植物エネルギー工学講座

- a-01. Kasai M, Nakata H, Seino H, Kamata D and Tsukiyama T: Effect of sink-limitation on leaf photosynthetic rate and various other characteristics in soybean plants. Plant Prod. Sci., in press.
- a-02. 山本英樹*・千田峰生：秋田県のセリから検出されたミツバモザイクウイルスとファイトプラズマ. 北日本病虫研報 57 : 58-59, 2006. (*秋田農試)
- a-03. Kasai, A., K. Kasai*, S. Yumoto**, M. Senda : Structural features of GmIRCHS, candidate of the I gene inhibiting seed coat pigmentation in soybean: implications for inducing endogenous RNA silencing of chalcone synthase genes. Plant Molecular Biology 64 : 467-479, 2007. (*Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences, **National Agricultural Research Center for Tohoku Region)
- a-04. Tatsuki, M.*, A. Endo**, H. Ohkawa, : Influence of time from harvest to 1-MCP treatment on apple fruit quality and expression of genes for ethylene biosynthesis enzymes and ethylene receptors. Postharvest Biology and Technology 43 : 28-35, 2007. (* National Institute of Fruit Tree Science, ** Fukushima Fruit Tree Experiment Station)
- c-01. 青山正和：なぜ土は茶色なのか? Humic Substances Research, 3 : 11, 2007.
- d-01. 青山正和・保嶋敬子：肥料成分強化リンゴ搾り粕が植物生育ならびに土壌の生物生と物理性に及ぼす影響, 2007 年度日本土壌肥料学会東北支部会福島大会講演要旨集, 7, 2007.
- d-02. 青山正和・田中 亮：リンゴ園土壌表層に集積した農薬由来重金属が微生物群集に及ぼす影響, 日本土壌肥料学会講演要旨集, 53 : 46, 2007.
- d-03. 大久保喜光・葛西厚史・千田峰生：トランスジェニックアラビドプシスを用いたダイズ候補 I 遺伝子プロモーター領域の発現解析. 日本育種学会第 111 回講演会 (茨城大学) 2007.
- d-04. 千田峰生・岡田みずほ・高橋 完・大西志全*・湯本節三**・田中義則***・高田吉丈**・高田法幸****・葛西宏介*****.

葛西厚史: Iからiへの突然変異に由来するダイズ種皮着色変異体におけるI遺伝子候補領域の構造変異. 日本育種学会第111回講演会(茨城大学) 2007. (*道立十勝農試,**東北農研センター,**道立中央農試,***十勝農協連,****弘大保健学科)

- d-05. 倉内 佑・大久保喜光・葛西厚史・千田峰生: 黄ダイズの種皮着色抑制遺伝子に由来する二本鎖RNAの同定. 平成19年度東北育種研究集会(秋田県立大学) 2007.
- d-06. 永松 敦*・増田 税*・千田峰生・松浦英幸*・葛西厚史・洪 鎮成*・喜多村啓介*・阿部 純*・金澤 章*: Virus-induced gene silencingを利用したダイズフラボノイド生合成の改変. 日本育種学会第112回講演会(山形大学) 2007. (*北海道大学大学院)
- d-07. Miyao, M. *, Taniguchi, Y. *, Fukuda, T. *, Masumoto, C. *, Ohkawa, H., Fukayama, H. ** and Sasaki, H. *** : Does the C4-like pathway operate in rice leaves? : Comparison of transgenic rice plants overproducing different sets of C₄ enzymes. PS2007 14th International Congress on Photosynthesis (Glasgow, UK) (*NIAS, **Kobe University, ***University of Tokyo)
- f-01. Oguchi Y, Kasai M: Photosynthesis and proton pump activity under sink-limited conditions in soybean plants. J Plant Res (Supple.), 119, 2006.
- f-02. 千田峰生: 大豆が黄色いわけ—農業形質に見られるRNA干渉. 一般公開シンポジウム「花が咲くメカニズムに迫る」(盛岡市) 2006.

応用生命工学科

生体機能工学講座

食品安全学研究室

- b-01. TAMIME AY¹⁾, HASSAN A²⁾, FARBWORTH T³⁾, TOBA T: Structure of fermented milks. TAMIME AY ed. Structure of Dairy Products, Blackwell Publishing (2007):134-169. (¹⁾Dairy Science and Technology Consultant, UK, ²⁾South Dakota State University, USA, ³⁾Agriculture and Agri-Food Canada, Canada.)

食品栄養化学研究室

- a-01. Takao Suzuki¹, Akiko Kashiwagi, Itaru Urabe¹ and Tetsuya Yomo^{2,3,4}: Inherent Characteristics of Gene Expression for Buffering Environmental Changes: BIOPHYSICS, 2006, **vol.2**: 63-70 (1 阪大院工, 2 阪大院情報, 3 阪大院生命機能, 4 ERATO, JST)
- a-02. Akiko Kashiwagi, Itaru Urabe¹, Kunihiro Kaneko^{2,3} and Tetsuya Yomo^{3,4,5}: Adaptive Response of a Gene Network to Environmental Changes by Fitness-induced Attractor Selection: PLoS ONE, 2006, 1(1), **e49** (1 阪大院工, 2 東大院総合文化, 3 ERATO, JST, 4 阪大院情報, 5 阪大院生命機能)
- a-03. Tadashi Yamada¹, Chikara Furusawa^{1,2}, Keisuke Nagahisa¹, Akiko Kashiwagi, Tetsuya Yomo^{1,2,3}, and Hiroshi Shimizu¹: Analysis of Fluctuation in Protein Abundance without Promoter Regulation based on *Escherichia coli* Continuous Culture: BioSystems, 2007, accepted (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)
- a-04. Shingo Suzuki¹, Chikara Furusawa^{1,2}, Naoki Ono², Akiko Kashiwagi, Itaru Urabe³ and Tetsuya Yomo^{1,2,4}: Insight into the sequence specificity of a probe on an Affymetrix GeneChip by titration experiments using only one oligonucleotide: BIOPHYSICS, **vol.3**: 47-56, 2007. (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院工, 4 阪大院生命機能)
- b-01. Tadashi Yamada¹, Makoto Sadamitsu¹, Keisuke Nagahisa¹, Akiko Kashiwagi, Chikara Furusawa^{1,2}, Tetsuya Yomo^{1,2,3}, and Hiroshi Shimizu¹: Analysis of fluctuation in gene expression based on continuous culture system: 2nd Int'l Workshop on Biologically Inspired Approaches to Advanced Information Technology (Bio-ADIT 2006), Osaka, Japan, Jan. 2006: A. J. Ijspeert et al. (Eds.), Springer-Verlag Berlin Heidelberg (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)
- d-01. 柏木 明子: 大腸菌を用いたモデル実験系で見られたアトラクター選択による環境適応: 「生物物理学アプローチによるゲノム情報解析研究会」第3回, 名古屋大学2006年12月
- d-02. Makoto Sadamitsu¹, Chikara Furusawa^{1,2}, Akiko Kashiwagi, Tetsuya Yomo^{1,2,3}, Hiroshi Shimizu¹: Heterogeneity of cell population in continuous culture of *Escherichia coli*: Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan, Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan, 2006, Nov. 12-16, 2006, p.S247 (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)
- d-03. Saburo Tsuru¹, Junya Ichinose², Akiko Kashiwagi, Tetsuya Yomo^{1,2,3}: Fitness induced gene expression of chloramphenicol-resistant *Escherichia coli* strain: Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan, Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan, 2006, Nov. 12-16, 2006, p.S248 (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)
- d-04. Masato Okubo¹, Akiko Kashiwagi, Toshihiko Kishimoto¹, Tetsuya Yomo^{2,3,4}: Adaptation dynamics for high temperature and heat tolerant evolution of *Escherichia coli*: Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan, Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan, 2006, Nov. 12-16, 2006, p.S402 (1 東邦大理, 2 阪大院情報, 3 阪大院生命機能, 4 ERATO, JST)
- d-05. Naoaki Ono¹, Shingo Suzuki², Akiko Kashiwagi, Chikara Furusawa^{1,2}, Tetsuya Yomo^{1,2,3}: An improved thermodynamical model of hybridization on high-density oligonucleotide microarrays: Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan, Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan, 2006, Nov. 12-16, 2006, p.S405 (1 ERATO, JST, 2 阪大院情報, 3 阪大院生命機能)
- d-06. Kumiko Kihara¹, Shingo Suzuki², Akiko Kashiwagi, Itaru Urabe³, Tetsuya Yomo^{1,2,4}: The changing cell state of the transition from the predator-prey to symbiotic relationship between *E.coli* and *D.discoideum*: Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan,

Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan, 2006, Nov. 12-16, 2006, p.S409 (1 阪大院生命機能, 2 阪大院情報, 3 阪大院工, 4 ERATO, JST)

- d-07. Naoki Ono¹, Shingo Suzuki², Chikara Furusawa^{1,2}, Akiko Kashiwagi, Tetsuya Yomo^{1,2,3}: Thermodynamical models of DNA hybridization on short oligonucleotide microarray: The Seventh International Conference on Systems Biology, Yokohama, Japan, 2006 Oct 9-13 (1 ERATO, JST, 2 阪大院情報, 3 阪大院生命機能)
- d-08. Motomu Matsui¹, Atsuko Shinohara¹, Shingo Suzuki², Naoaki Ono², Chikara Furusawa^{2,3}, Tomoharu Agata², Akiko Kashiwagi, Satoshi Harada¹, Tomoya Baba⁴, Rintaro Saito¹, Kenji Nakahigashi¹, Masaru Tomita¹, Hirotada Mori⁴, Tetsuya Yomo^{2,3,5}, Akio Kanai¹: Analysis of Novel Non-coding and Antisense RNAs in Escherichia coli Transcriptome: RNA 2007 Twelfth Annual Meeting of the RNA Society, May29-June 3, 2007. (1 慶大先端生命科学研究, 2 阪大院情報, 3 ERATO, JST, 4 奈良先端遺伝子教育研究センター, 5 阪大院生命機能)
- d-09. 小野直亮¹, 縣 朋治¹, 鈴木真吾¹, 柏木明子, 古澤 力^{1,2}, 四方哲也^{1,2,3}, 清水 浩¹: 熱力学モデルに基づくマイクロアレイを用いた遺伝子発現解析の改良: 東広島市 広島大学東広島キャンパス総合科学部: 日本生物工学会第59回年会 2007年 1D09-1 (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)
- d-10. 柏木明子, 櫻井崇弘¹, 森光太郎², 四方哲也^{1,2,3}: 大腸菌内一遺伝子発現量可変株の構築: 東広島市 広島大学東広島キャンパス総合科学部: 日本生物工学会第59回年会 2007年 2E10-3 (1 阪大院情報, 2 阪大院生命機能, 3 ERATO, JST)
- d-11. 定光 信¹, 古澤 力^{1,2}, 永久圭介¹, 柏木明子, 四方哲也^{1,2,3}, 清水 浩¹: 大腸菌連続培養系における細胞状態の多様性: 東広島市 広島大学東広島キャンパス総合科学部: 日本生物工学会第59回年会 2007年 2F15-5 (1 阪大院情報, 2 ERATO, JST, 3 阪大院生命機能)

応用微生物学研究室

- a-01. 岩間直子・村中文人・斎藤知明・石田一則・殿内暁夫・宮入一夫・武田 潔: 清酒麹菌における低褐変性グルコアミラーゼ高活性変異株の育種開発. 日本醸造協会誌 **102**: 213-221 (2007)
- a-02. 殿内暁夫・今田大介: 白神山地からの有用糸状菌の分離. 白神研究 **4**: 22-27 (2007)
- a-03. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆・殿内暁夫・Mitra B.K.・松岡継彦・加藤 幸・野田香織・本多和茂: 白神山地の土壌に関する研究(4). 白神研究 **4**: 28-34 (2007)
- c-01. 殿内暁夫: カビと酸素. 日本微生物生態学会誌 **21**: p15 (2007)
- d-01. 秋月貴光・殿内暁夫・館山明日香・吉田 孝・奥野智旦・橋本貴美子・宮入一夫: 毒キノコ, オオシロカラカサタケの毒性メタロエンドペプチダーゼのクローニングと *A. oryzae* での発現. 2007年度日本農芸化学会大会講演要旨集 p.1573. (2007)
- d-02. 岩間直子・殿内暁夫・武田 潔・宮入一夫: 麹菌 *Aspergillus oryzae* の低褐変性グルコアミラーゼの生化学的特徴と発現量の解析. 2007年度日本農芸化学会大会講演要旨集 p.189. (2007)
- d-03. 殿内暁夫・藤村直久: 水田土壌の嫌気性糸状菌について. 第22回日本微生物生態学会講演要旨集. p.26. (2006)
- f-01. 殿内暁夫: バイオマスの有効利用の実例. ルネサス北日本セミコンダクター (2007)
- f-02. 殿内暁夫: 微生物を利用したニンニクからの新規発酵食品の開発. 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会セミナー (2007)

生体情報工学講座

生化・有機化学研究室

- a-01. Murakami, T., Takada, N., Harada, Y., Okuno, T., Hashimoto, M.: Stimulation of the Biosynthesis of the Antibiotics Lambertellols by the Mycoparasitic Fungus *Lambertella corni-marisi* under the Acidic Conditions Produced by Its Host Fungus *in Vitro*. *Biosci. Biotech. Biochem.*, **71**, (5), 1230-1235 (2007)
- a-02. Shimura, H., Matsuura, M., Takada, N., Koda, Y.: An antifungal compound involved in symbiotic germination of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense* (Orchidaceae). *Phytochemistry*, **68**, 1442-1447 (2007).
- a-03. Hashimoto, M., Murakami, T., Funahashi, K., Tokunaga, T., Nihei, K., Okuno, T., Kimura, T., Naoki, H., Himeno, H.: An RNA polymerase inhibitor, cyclothiazomycin B1, and its isomer. *Bioorg. Med. Chem.*, **14**, 8259-8270 (2006)
- a-04. Li, T-Z., Katoh, N., Miyairi, K., Okuno, T.: S-RNase is secreted from transmitting tract cells into the

- intercellular spaces after pollen tubes enter the style in apple (*Malus pumila* Mill.) *J Hort. Sci. biotech.* **82**, 433-438 (2007)
- a-05. Matsuura, M., Yamada, M., Saikawa, Y., Miyairi, K., Okuno, T., Konno, K., Uenishi, J., Hashimoto, K., Nakata, M.: Bolevenine, a toxic protein from the Japanese toadstool *Boletus venenatus*. *Phytochemistry* **68**, 893-898 (2007)
- a-06. 岩間直子, 村中文人, 斉藤知明, 石田一則, 殿内暁夫, 宮入一夫, 武田潔: 清酒麹菌における低褐変性グルコアミラーゼ高活性変異株の育種開発, 日本醸造協会誌 **102**, 213-221 (2007)
- d-01. 橋本 勝, 村上貴宣, 舟橋克幸, 木村天胤, 姫野俵太, 徳永隆司, 二瓶賢一, 奥野智旦, 直木秀夫, Mark C. Bagley: Cyclothiazomycin B1, B2の単離・構造とリボソーム依存型GTPase阻害活性. 第42回天然有機化合物討論会 (仙台)
- d-02. 斉藤 新, 松塚祐樹, 高田 晃, 幸田泰則: タマネギの鱗茎形成を阻害する内生因子 第42回天然有機化合物討論会 (仙台)
- d-03. 高田 晃, 斉藤 新, 松塚祐樹, 望月達史, 鎬木一正, 幸田泰則: 鱗茎形成におけるリノレン酸の役割. 植物化学調節学会第41回大会 (大阪)
- d-04. 村上貴宣, 高田 晃, 奥野智旦, 橋本 勝: *L. sp. 1346*が低温化で生産する新規代謝産物について. 平成18年度日本農芸化学会北海道支部・東北支部合同支部会 (札幌)
- d-05. 佐藤 祐, 山本和範, 宮入一夫, 橋本 勝: トリガラクトン酸メチルグリコシドの合成研究. 平成18年度日本農芸化学会北海道支部・東北支部合同支部会 (札幌)
- d-06. 山本和範, 橋本 勝, 奥野智旦: endo-PG1の反応機構解明を目指した遷移状態アナログの合成. 平成18年度日本農芸化学会北海道支部・東北支部合同支部会 (札幌)
- d-07. 竹本成孝, 吉田祐子, 橋本 勝, 幸田泰則, 高田 晃: ホウレンソウの抽だいを制御する内生因子に関する研究. 平成18年度日本農芸化学会北海道支部・東北支部合同支部会 (札幌)
- d-08. 鎬木一正, 松塚祐樹, 望月達史, 斉藤 新, 橋本 勝, 幸田泰則, 高田 晃: タマネギの鱗茎形成を阻害する内生因子に関する研究. 平成18年度日本農芸化学会北海道支部・東北支部合同支部会 (札幌)
- d-09. 高田 晃, 村上貴宣, 竹本成孝, 石戸谷歩, 橋本 勝, 早狩 誠: カボチャに含まれるACE阻害物質に関する研究. 日本農芸化学会2007年度大会 (東京)
- d-10. 山本和範, 江下 僚, 城所俊一, 宮入一夫, 奥野智旦, 橋本 勝: シクロヘキセン構造を含む気質アナログの合成研究. 日本農芸化学会2007年度大会 (東京)
- d-11. 村上貴宣, 高田 晃, 奥野智旦, 橋本 勝: *Lambertella sp.1346*が低温で生産する新規代謝物について. 日本農芸化学会2007年度大会 (東京)
- d-12. 望月達史, 斉藤 新, 松塚祐樹, 高田 晃, 幸田泰則: タマネギの鱗茎形成を制御する内生因子の解明. 日本農芸化学会2007年度大会 (東京)
- d-13. 脇田枝里子, 松塚祐樹, 望月達史, 斉藤 新, 橋本 勝, 幸田泰則, 高田 晃: 鱗茎形成を制御する物質に関する研究(2). 新規素材探索研究会 第6回セミナー (横浜)
- d-14. 村上貴宣, 対馬太郎, 野宮正浩, 薄田峰彰, 高田 晃, Warren Hehre, 橋本 勝: *Lambertella*属菌の代謝物の構造決定について. 新規素材探索研究会 第6回セミナー (横浜)
- d-15. 高田 晃, 村上貴宣, 石戸谷歩, 田中将之, 竹本成孝, 橋本 勝, 早狩 誠: 抗痴呆薬開発を目指したACE阻害剤の探索. 新規素材探索研究会 第6回セミナー (横浜)
- d-16. 野宮正浩, 村上貴宣, 橋本 勝: *Lambertellol*およびその誘導体の合成研究. 新規素材探索研究会 第6回セミナー (横浜)
- d-17. N. Takada, J. Matsuno, M. Abe, M. Hashimoto, Y. Koda: THE ROLE OF JASMONIC ACID IN MONOCARPIC SENESCENCE IN SOYBEAN. 19th IPGSA Meeting (Mexico)
- d-18. 小川 俊, 大木 肇, 清水哲哉, 奥野智旦, 宮入一夫: *Stereum purpureum*由来エンドポリガラクトンナーゼ I 遺伝子の酵母での発現とジスルフィド結合の解析. 日本応用糖質科学会 2007年度大会 (藤沢). 8月
- d-19. 秋月貴光, 殿内暁夫, 館山明日香, 吉田 孝, 奥野智旦, 橋本貴美子, 宮入一夫: 毒キノコ, オオシロカラカサタケの毒性メタロエンドペプチダーゼのクローニングと *A. oryzae*での発現. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月
- d-20. 柴田泰成, 七島直樹, 工藤真紀子, 奥野智旦, 宮入一夫: *Pleurotus eryngii*由来2成分性ヘモリシン, エリトキシン A, B の膜孔形成機構. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月
- d-21. 小川 俊, 大木 肇, 清水哲哉, 奥野智旦, 宮入一夫: *Stereum purpureum*由来エンドポリガラクトンナーゼ I 遺伝子の酵母での発現, 精製, 性質. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月

- d-22. 大木 肇, 伊藤真理子, 清水哲哉, 奥野智旦, 宮入一夫: 大腸菌で発現させた *Stereum purpureum* 由来エンドポリガラクトナーゼ IV のジスルフィド結合の解析. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月
- d-23. 伊藤真理子, 大木 肇, 吉田 孝, 奥野智旦, 宮入一夫: *Stereum purpureum* 由来エンドポリガラクトナーゼ IV 遺伝子の *A. oryzae* での発現と組み換え酵素の精製および性質. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月
- d-24. 土岐幸子, 種市和也, 滝川とも美, 塩谷敏明, 宮入一夫: 市販アップルペクチンの酵素分解により得られたペクチンオリゴ糖の構造について. 日本農芸化学会 2007年度大会 (東京). 3月
- d-25. 岩間直子, 殿内暁夫, 武田 潔, 宮入一夫: 麹菌 *Aspergillus oryzae* の低褐変性グルコアミラーゼ高活性変異株におけるグルコアミラーゼの生化学的特徴と発現量の解析. 日本農芸化学会2007年度大会 (東京). 3月
- d-26. 土岐幸子, 滝川とも美, 塩谷敏明, 奥野智旦, 宮入一夫: アップルペクチンから酵素分解と酸加熱分解により製造されたペクチンオリゴ糖の性状. 日本農芸化学会東北支部・北海道支部合同支部大会 (札幌) 2006. 11月
- d-27. 大木 肇, 清水哲哉, 奥野智旦, 宮入一夫: *Stereum purpureum* 由来エンドポリガラクトナーゼ IV 遺伝子 の大腸菌と酵母での発現と組み換え酵素の精製および性質. 日本農芸化学会東北支部・北海道支部合同支部大会, (札幌) 2006. 11月
- f-01. 橋本 勝: リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の有機化学的研究 (招待講演) 新規素材探索研究会 第6回セミナー (横浜)
- f-02. 高田 晃: 八戸高等学校模擬講義 (青森)
- f-03. 宮入一夫, 水島伸治, 土岐幸子, 合田紫乃: りんご絞り粕からのペクチンオリゴ糖の製造とその性状. 八戸高専と弘前大学とのシーズ提案会 (八戸) 2007. 1月
- f-04. 宮入一夫: バイオマス利用の現状と課題, バイオマス講演会 (ルネサス北日本) 2007. 8月

遺伝子工学研究室

- a-01. Hashimoto, M., Murakami, T., Funahashi, K., Tokunaga, T., Nihei, K., Okuno, T., Kimura, T. & Himeno, H. An RNA polymerase inhibitor, cyclothiazomycin B1, and its isomer. *Bioorg. Med. Chem.* **14** (2006), 8259-8270.
- a-02. 姫野俵太, 武藤 昱: 「トランス・トランスレーション」, 蛋白質核酸酵素, **51** (15), 2321-2327, 共立出版 (2006).
- a-03. Takada, K., Takemoto, C., Kawazoe, M., Konno, T., Hanawa-Suetsugu, K., Lee, S., Shirouzu, M., Yokoyama, S., Muto, A. & Himeno, H.: *In vitro trans-translation of Thermus thermophilus*: Ribosomal protein S1 is not required for the early stage of *trans-translation*. *RNA* **13** (2007), 503-510.
- a-04. 姫野俵太, 栗田大輔, 高田一馬, 今野貴之, 塙 (末次) 京子, 竹本千重, 川添将仁, 横山茂之, 行木信一, 河合剛太, 武藤 昱: 「トランス・トランスレーションの分子メカニズム」, 生化学, **79**, 213-221 (2007).
- c-01. 牛田千里: RNAiの発見, 生物の科学 遺伝, 第61巻1号: 4-5. (2007)
- d-01. 今野貴之, 栗田大輔, 武藤 昱, 姫野俵太: tmRNA, SmpB, リボソーム間の相互作用の解析によるトランス・トランスレーションにおける翻訳再開機構の解明, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-02. 木村天胤, 高木邦明, 武藤 昱, 姫野俵太: リボソーム小サブユニット上におけるRsgAの相互作用部位の解析, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-03. 長谷要一, 武藤 昱, 姫野俵太: リボソーム小サブユニット依存GTPase RsgA欠損による浸透圧耐性の獲得, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-04. 高田一馬, 竹本千重, 川添将仁, 今野貴之, 白水美香子, 横山茂之, 武藤 昱, 姫野俵太: リボソームタンパク質S1はトランス・トランスレーションの初期段階で重要でない, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-05. 姫野俵太, トランス・トランスレーション, 第1回無細胞生命科学研究会 (松山) (2006).
- d-06. Kurita, D., Konno, T., Takada, K., Asano, K., Muto, A. & Himeno, H. Trans-translation mediated by tmRNA and SmpB. *RNA* 2006 Izu "Functional RNAs and Regulatory Machinery", Izu, December 3-7 (2006).
- d-07. Muto, A., Kurita, D., Sasaki, R. & Himeno, H.: Interaction between SmpB and ribosome from directed hydroxyl radical probing. *Ribosomes* 2007, Massachusetts, June 3-8 (2007).
- d-08. Ogasawara, T., Hokii, Y., Muto, A., Ushida, C.: *C. elegans* small-RNA catalog. *RNA* 2006 Izu "Functional RNAs and Regulatory Machinery", Izu, December 3-7 (2006).
- d-09. 笹野有未, 保木井悠介, 牛田千里, 井上邦夫, 坂本 博, 藤原俊伸: 線虫 *Caenorhabditis elegans* におけるrRNAプロセッシング機構. 分子生物学会第7回春季シンポジウム, 淡路島夢舞台国際会議場 (2007)
- d-10. 牛田千里, 小笠原隆広, 天川純一, 遠藤優子, 菅原由起, 武藤 昱, 保木井悠介: 線虫の機能RNomics. 第40回日本発生生物学会, 第59回日本細胞生物学会合同大会, 福岡国際会議場 (2007)
- d-11. Hokii, Y., Shimoyama, M., Taneda, A., Sasano, Y., Fujiwara, T., Sakamoto, H., Sakata, K., Shingai, R., Muto, A.,

- Ushida, C.: C/D or H/ACA snoRNP proteins do not influence the nucleolar localization of *C. elegans* CeR-2/CeN21 RNA. 16th International *C. elegans* Meeting, University of California, Los Angeles, June 27-July 1 (2007).
- d-12. 保木井悠介, 笹野有未, 藤原俊伸, 坂本 博, 武藤 昱, 牛田千里: 受精前後の卵における線虫 *Caenorhabditis elegans* 核小体低分子RNAの動態, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-13. 菅原由起, 保木井悠介, 武藤 昱, 牛田千里: 線虫snoRNPタンパク質遺伝子ノックダウン株におけるsnoRNAの局在変化, 第9回RNAミューティング (名古屋) (2007).
- d-14. 佐藤洋旭, 牛田千里: Intracellular localization of *C. elegans* novel ncRNAs. 新しいncRNA/RNPを見つける会 (理化学研究所バイオリソースセンター, つくば) (2007).
- f-01. 姫野俵太, トランストランスレーションシステム, 北東北3大学研究集会-北東北における細胞ストレス応答研究の拠点形成- (盛岡) (2006).
- f-02. 牛田千里, 保木井悠介, Movement of *Caenorhabditis elegans* small ncRNA in oogenesis, fertilization and early embryonic cell division. 機能性RNAプロジェクトコロキウム (お台場) (2006)
- f-03. 牛田千里: 組織特異的発現を示す新規ncRNAについて. 機能性RNAプロジェクトコロキウム (お台場) (2007)
- e-01. 姫野俵太, 牛田千里, 佐野輝男, 原田竹雄, 鬼島 宏, 種田晃人, 千田峰生, 橋本 勝: 平成18年度弘前大学学長指定重点研究業績集 —機能性RNAを基盤とする新技術開発のための基礎研究とその展開—, 弘前大学農学生命科学部RNA研究センター (2007).
- e-02. 平 秀晴, 山下哲郎, 伊藤英晃, 姫野俵太: 北東北における細胞ストレス応答研究の拠点形成, 平成17・18年度北東北国立3大学連携推進プロジェクト研究成果報告書 (2007).
- e-03. 牛田千里: 機能性RNAプロジェクト平成18年度の研究成果報告書 (2007).

細胞工学講座

微生物工学研究室

- a-01. Hisatsune, J., Yamasaki, E., Nakayama, M., Shirasaka, D., Kurozono, H., Katagata, Y., Inoue, H., Han, J., Sap, J., Yahiro, K., Moss, J. and Hirayama, T.: *Helicobacter pylori* VacA enhances prostaglandin E2 production through induction of Cyclooxygenase 2 expression via a p38 mitogen-activated protein kinase/activating transcription factor 2 cascade in AZ-521 cells. *Infection and Immun.*, **75**(9), 4472-4481. (2007)
- a-02. Kasajima, Y., Yamaguchi, M., Hirai, N., Ohmachi, T., Yoshida, T.: *In vivo* expression of UDP-N-acetylglucosamine: alpha-3-D-mannoside beta-1,2-N-acetylglucosaminyltransferase I (GnT-1) in *Aspergillus oryzae* and effects on the sugar chain of alpha-amylase. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, **70**, 2662-2668, (2006)
- c-01. 片方陽太郎, 佐々木文之: リンゴ鹿角霊芝抽出物およびその製造方法. 特願 2007-182695
- d-01. 佐々木文之, 大須賀雄, 柴田浩夫*, 片方陽太郎 (*機能性食品開発センター): リンゴ鹿角霊芝 (antler-shaped fruiting body of *Ganoderma lucidum* from Apple's tree pruning) 由来の水溶性画分を用いたがん細胞株の増殖抑制効果. 2007年度日本農芸化学会 (東京), 2007. 3. 26. (*機能性食品開発センター)
- d-02. 佐々木文之, 柴田浩夫, 片方陽太郎: リンゴ鹿角霊芝 (antler-shaped fruitingbody of *Ganoderma lucidum* from Apple's tree pruning)由来の水溶性画分におけるがん細胞株の増殖抑制効果について. 平成18年度日本農芸化学会北海道・東北合同支部会 (札幌), 2006. 11. 12.
- d-03. 高橋 礼¹・吉田尚生¹・戸谷一英¹・小泉英誉・吉田 孝・村田健臣²・碓氷泰市²・岡田宏文³・森川 康³: *Trichoderma reesei*の産生する二糖縮合型酵素の精製. 日本農芸化学会大会 (東京), 2007年 (1一関高専・物化工, 2静岡大・農, 3長岡科技大・生物).
- d-04. 秋月貴光・殿内暁夫・舘山明日香・吉田 孝・奥野智旦¹・橋本貴美子²・宮入一夫: 毒キノコ, オオシロカラカサタケの毒性メタロエンドペプチダーゼのクローニングと *A. oryzae* での発現. 日本農芸化学会大会 (東京) 2007年 (1秋田看護大, 2京都薬大).
- d-05. 伊藤真理子・大木 肇・吉田 孝・奥野智旦¹・宮入一夫: *Stereum purpureum*由来エンドポリガラクトツロナーゼIV遺伝子の *A. oryzae* での発現と組み換え酵素の精製および性質. 日本農芸化学会大会 (東京), 2007年 (1秋田看護大).
- d-06. 小泉英誉・¹北本則行・²戸谷一英・吉田 孝: ラクトース縮合活性を有する *Aspergillus oryzae* 由来セルラーゼについて. 日本応用糖質科学会平成19年度大会 (藤沢), 2007年 (1愛知産技研・食品工技, 2一関高専・物化工).
- d-07. 吉田尚生¹・高橋 礼¹・戸谷一英¹・小泉英誉・吉田 孝・岡田宏文³・森川 康³・村田健臣²・碓氷泰市²: *Trichoderma reesei*の産生する二糖縮合型酵素の同定と諸性質. 日本応用糖質科学会平成19年度大会 (藤沢), 2007年 (1一関高

専・物化工, ²静岡大・農, ³長岡科技大・生物).

- d-08. 長山耕己, 糸野詩織, 吉田 孝, 大町鉄雄: C末端にHis-tagを付加した α -MPPの過剰発現が細胞性粘菌の発生に与える影響. 日本農芸化学会2007年度大会(東京), (2007年)
- f-01. 片方陽太郎: リンゴ鹿角霊芝由来のタンパク質成分の皮膚がん細胞に対する増殖制御効果. 平成18年度学術国際振興基金助成による公開発表会(弘前), 2007. 7. 12.
- f-02. 片方陽太郎, 浅田武典: 優良なリングを効率的に生産するための摘果と植物細胞特異的因子の検索, 第一報: タンパク成分の探索と分析. 弘前大学農学部50周年地域振興特別研究中間報告会(弘前), 2006, 11. 22.
- f-03. 佐々木文之, 片方陽太郎: リンゴ鹿角霊芝の水溶性成分のアセトン画分による腫瘍細胞の生育抑制について. 第6回八戸高専と弘前大学とのシーズ提案会(八戸), 2007. 1. 12.

細胞工学研究室

- a-01. Taku Ozaki, Hiroshi Tomita, Makoto Tamai and Sei-ichi Ishiguro. Characteristics of Mitochondrial Calpains. J. Biochem. 2007; **142**(3), 365-376.
- a-02. Asai N, Abe T, Saito T, Sato H, Ishiguro S, Nishida K. Temporal and spatial differences in expression of TrkB isoforms in rat retina during constant light exposure. Exp. Eye Res. 2007; **85**(3), 346-355.
- d-01. 赤坂翔太, 泉 謙道, 石黒誠一: 網膜色素上皮細胞に存在する桿体細胞貪食に関与する受容体タンパク質の同定. 平成19年度日本動物学会東北支部大会(秋田市カレッジプラザ), 平成19年7月28日
- d-02. 尾崎 拓¹, 富田浩史², 玉井 信², 石黒誠一¹: ミトコンドリア内在性カルパインの性質. 第78回日本動物学会(弘前大学文京町キャンパス) 平成19年9月20日~22日 (¹弘前大・院農学生命・応用生命工学, ²東北大学先進医工学研究機構)
- d-03. 葛西秋宅・菊池英明: Herbimycin Aによるダイオキシン受容体の阻害機構の解明. 平成19年度日本動物学会東北支部会(秋田市カレッジプラザ) 2007. 7. 28.
- d-04. 畠山幸紀・雨森道紘*: マウス白血病細胞の浸潤運動のビデオ画像解析. 第36回日本免疫学会総会・学術集会(大阪国際会議場) 2006. 12. (*弘前大学理工学部)
- d-05. 畠山幸紀・雨森道紘*: 細胞運動解析プログラムの開発. 日本動物学会第78回大会(弘前大学文京町キャンパス) 2007. 9. (*弘前大学理工学部)
- d-06. Hatakeyama, K., Amemonori, M.*: Automated video image analysis of cell movement. 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. (Pacifico Yokohama, Yokohama) 2007. 10. (*Hirotsuki Univ. Faculty of Science and Technology)
- f-01. 畠山幸紀*: NHK 高校講座「生物」. NHK教育テレビ(NHKエデュケーショナル制作) 2007. 5. 28.放送(*制作協力)

生物生産科学科

園芸学講座

- a-01. Bakhshi D. and O. Arakawa: Induction of phenolic compounds biosynthesis with light irradiation in the flesh of red and yellow apples. J. Applied Horti. **8**(2): 101-104, 2007.
- a-02. 浅田武典：リンゴ樹における発生部位別スパー構成に関する研究. 弘前大学農学生命科学部学術報告 **9**: 28-67, 2005.
- a-03. 佐々木和也*・西島隆明**・本多和茂・嵯峨紘一・鮫島正純：昼夜温度差および短時間変温がシネンシス系デルフィニウムの生育に及ぼす影響. 園芸学研究 **6** (4): 577-583, 2007. (*岩手大院連合農学研究科・青森農林総研フラワーセンター **独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所)
- a-04. Ming Sun*, Shuhuai Zhang, Hong Sun*: Calibration Techniques of Machine Vision System and their Application in Nondestructive Measurement of Plants, International e-Conference of Computer Science, Athens, Greece. 1-8, 2006. (*中国農業大学)
- b-01. Arakawa, O. and D. Bakhshi D.: Effects of environmental and physiological factors on polyphenolics accumulation in skin and flesh of 'Fuji7' apple. 中日苹果産業技術研究 (王振興・神田健策編): 127-135, 2007.
- c-01. 石川幸男*・本多和茂・加藤芳文** (監修): 小さなカタクリの大きな秘密—端野のカタクリと森のお話—, たんのカタクリと森の会. 2007. (*専修大学北海道短期大学**エヌエス環境㈱札幌支社)
- d-01. 徐 剣波・荒川 修・浅田武典. 1年生リンゴ幼木の新梢生長における貯蔵態窒素の利用. 園学研 **6** (別1): 55, 2007.
- d-02. Arakawa, O., K. Luo, J. Xu, and T. Asada: A selected thesis of the international technological forum on apple industry. 159, 2007.
- d-03. 佐々木和也*・西島隆明**・本多和茂・嵯峨紘一・鮫島正純：シネンシス系デルフィニウムにおける昼夜温度差による茎伸長制御には内生ジベレリンが関与している. 日本植物学会東北支部 第19回青森大会. 22, 2007. (*岩手大院連合農学研究科・青森農林総研フラワーセンター **独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所)
- d-04. 佐々木和也*・初山慶道**・本多和茂・嵯峨紘一・鮫島正純：シネンシス系デルフィニウムの抽苔とLEAFY 遺伝子発現の関連性. 園学研 **6** (別2): 611, 2007. (*岩手大院連合農学研究科・青森農林総研フラワーセンター **青森総農研グリーンバイオセンター)
- d-05. 本多和茂・小関雄大：種子の培養による倍数性の異なるデルフィニウム園芸品種間 (パシフィックジャイアント系×シネンシス系) での雑種作出およびその特性. 園学研 **6** (別2): 585, 2007.
- d-06. 上野有穂, 張 樹槐: 分光反射計測によるリンゴ果実の打撲傷の検出, 一打撲傷検出波長の検討一, 平成19年度農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集: 31～32, 2007.
- d-07. 佐々木康・張 樹槐: LED照射によるハクサイ幼苗生育への影響, 平成19年度農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集: 23～24, 2007.
- d-08. 上野有穂, 張 樹槐: 分光反射特性を利用したリンゴ果実表面の打撲傷の検出, 一分光反射特性の経時変化一, 農業環境工学関連学会2007年合同大会. 23, 2007.
- d-09. 張 樹槐, 片平光彦^{*1}, 大泉隆弘^{*2}, 後藤恒義^{*2}: 画像処理によるエダマメの選別方法に関する研究 (第3報) —画像処理による粒数及び熟度の選別基準—, 農業環境工学関連学会2007年合同大会. 27, 2007. (^{*1} 秋田県農業試験場, ^{*2} ㈱山本製作所)
- d-10. 片平光彦^{*1}, 張 樹槐, 大泉隆弘^{*2}, 後藤恒義^{*2}: 画像処理によるエダマメの選別方法に関する研究 (第4報) —選別機の試作と性能調査—, 農業環境工学関連学会2007年合同大会. 27, 2007. (^{*1} 秋田県農業試験場, ^{*2} ㈱山本製作所)
- e-01. 荒川 修: 'ふじ' の栽培における青森県と中国の環境と技術の比較. 中国と日本におけるりんご産業の棲み分け戦略に関する基礎的調査研究. 平成17-18年度科学研究費補助金基盤研究(B:海外)研究成果報告書: 54-57, 2007.
- e-02. 成 鉦厚・荒川 修・澤田信一. リンゴ幼樹における連続明期処理によるシンク・リミット状態での光合成速度低下の機構. 光合成物質生産の新規制御物質の分離同定とソース・シンク制御機構の総合的研究. 平成17-18年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: 109-114, 2007.

農業生産学講座

作物学教室

- a-01. 松山信彦・三枝正彦：東北地方におけるアロフェン黒ぼく土と非アロフェン黒ぼく土の分布と土壌管理上の問題点，土壌を愛し，土壌を守る，p123～126，日本ペドロロジー学会編，2007.
- a-02. RASMUSSEN, C., MATSUYAMA, N., DAHLGREN, R., SOUTHARD, R. and BRAUER, N. : Soil Genesis and Mineral Transformation Across an Environmental Gradient on Andesitic Lahar. *Soil Sci Soc Am J.*, **71**:225-237. 2007.
- a-03. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆・殿内暁夫・MITRA, B.K.・松岡嗣彦・加藤 幸・野田香織・本多和茂：白神山地の土壌に関する研究(4)，白神研究，**4**:28～34. 2007.
- a-04. MITRA, B.K., SASAKI, C., ENARI, K., MATSUYAMA, N. and FUJITA, M.: Suitability assessment of shallow groundwater for agriculture in sand dune area of northwest Honshu Island, Japan. *Applied Ecology and Environmental research*, **5**:177-188. 2007.
- a-05. MITRA, B.K., SASAKI, C., ENARI, K., MATSUYAMA, N. and PONGPATTANASIRI, S.: Groundwater Quality in Sand dune area of Northwest Honshu Island in Japan. *J. Agronomy*, **6**:81-87. 2007.
- a-06. 岩渕伸雄・村山成治・齋藤 司・松山信彦・工藤啓一：低投入型稲作に関する研究，第7報 稲作におけるリンゴジュース搾り粕の施用回数と雑草発生量，日本作物学会東北支部会報，**49**:23～24. 2006.
- c-01. RASMUSSEN, C., MATSUYAMA, N., DAHLGREN, R., SOUTHARD, R. and BRAUER, N.: Soil Genesis and Mineral Transformation Across an Environmental Gradient on Andesitic Lahar. *CSA News letter*. 2007.
- d-01. 松山信彦・小山内由紀・工藤啓一・村山成治：床土代替資材を用いた場合の水稻苗の特徴，2007年日本作物学会東北支部講演会
- d-02. 松山信彦・今野浩紹・工藤予志夫・境谷栄二・佐々木長市：施肥により強酸性化したアロフェン質黒ボク土の物理性，2007年日本土壌肥料学会

植物遺伝生態学研究室

- a-01. Sugiyama S. and Shimazaki T. :Increased cell wall content and freezing resistance and snow mold resistance during cold acclimation of winter wheat under field conditions. *Plant Production Science* **10** : 383-390, 2007.
- a-02. Hossain M.Z., Okubo A. and Sugiyama S.: Local variation in soil microbial community structure in artificial and semi-natural grasslands. *Grasslands Science* **53** : 165-171, 2007.
- c-01. Hossain, M.Z. and Sugiyama, S.: Plants can influence decomposition and mineralization through leaf chemical composition. 第62回日本草地学会講演会（沖縄），2006.
- c-02. Hossain, M.Z. and Sugiyama, S.: Linkages between aboveground plants and belowground soil microbial communities through leaf chemicals: experimental evidence. 第62回日本草地学会講演会（沖縄），2006.
- c-03. Sabreen, S. and Sugiyama, S. : Involvement of growth and leaf traits for interspecific tolerance to cadmium stress by cool season grasses. 第62回日本草地学会講演会（沖縄），2006.
- c-04. Sabreen, S., Sugiyama, S. and Saiga, S. : Phytoremediation potential of cadmium by cation accumulator grasses. 第62回日本草地学会講演会（沖縄），2006.
- c-05. Sabreen, S. and Sugiyama, S.: Leaf Morphological and Physiological Traits: A Cue for Resistance to Dehydration Stress among C3 Grass Species. 第63回日本草地学会講演会（麻布大学），2007.
- c-06. Rahman, M.H., Okubo A, and Sugiyama S.: Microbial community in Andisol as related to land use and tillage practice. 第63回日本草地学会講演会（麻布大学），2007.
- c-07. 大久保敦史・杉山修一 根圏微生物群集構造の作物間比較. 植物微生物研究会第17回講演会，2007.

畜産学研究分野

- a-01. Suzuki, H., Satoh, M.¹⁾ and Kabashima, K.:Distributions of mitochondria and cytoskeleton in the hamster embryos developed in vivo and in vitro. *Journal of Mammalian Ova Research*, **23**:128-134. 2006.
- a-02. Kaneko, H.*, Matsuzaki, M., Noguchi, J.*, Kikuchi, K.*, Ohnuma, K.* and Ozawa, M.*:Changes in circulating and testicular levels of inhibin A and B during postnatal development in bulls. *Journal of Reproduction and Development*, **52**:741-749. 2006. (*National Institute of Agrobiological Sciences)
- a-03. Luther, J.*, Aitken, R.**, Milne, J.**, Matsuzaki, M., Reynolds, L.*, Redmer, D.* and Wallace, J.M.**:Maternal and

- fetal growth, body composition, endocrinology and metabolic status in undernourished adolescent sheep. *Biology of Reproduction*, **77**:343-350. 2007. (*North Dakota State University, **Rowett Research Institute)
- a-04. Luther, J.*, Milne, J**, Aitken, R**, Matsuzaki, M., Reynolds, L.*, Redmer, D.* and Wallace, J.M.**: Placental growth, angiogenic gene expression, and vascular development in undernourished adolescent sheep. *Biology of Reproduction*, **77**: 351-357. 2007. (*North Dakota State University, **Rowett Research Institute)
- a-05. Shiba, N.*, Matsuzaki, M., Tsuneishi, E.** and Iwamoto, H.***: Changes in the pyridinoline concentration of the gastrocnemius and soleus muscle in goats from 2 weeks prenatal to 24 weeks of age. *Small Ruminant Research*, **71**:144-149. 2007. (*National Agricultural Research Center for Tohoku Region, **National Agricultural Research Center for Kyushu Okinawa Region, ***Kyushu University)
- d-01. Kabashima, K., Matsuzaki, M. and Suzuki, H.: Interaction of microtubules and microfilaments with distribution of mitochondria in 2-cell hamster embryos. 2007 International Embryo Transfer Society Annual Meeting, Kyoto, 2007.
- d-02. 高垣裕史・松崎正敏・高橋敏能*・堀口健一*・井上達志**・石田光晴**・工藤 隆***・豊川好司****: 高温高速乾燥処理によるトウモロコシの飼料特性の変化について. 第107回日本畜産学会大会(東京都). 2007. (*山形大農・**宮城大食産業学部・***かくみつ食品・****放送大学青森セ)
- d-03. 松崎正敏・倉本慶子*・東 紀子*・木村良博*・折戸秀樹**・神谷 充**・常石英作**・鈴木裕之: 強化哺育子牛の血液成分の変化と発育との関係. 第107回日本畜産学会大会(東京都). 2007. (*全酪連酪技研・**九州沖縄農研)
- d-04. 常石英作*・柴 伸弥**・中西雄二*・平野 清*・小路 敦*・松崎正敏・神谷 充*・折戸秀樹*: 牛肉中タウリン含量は栄養条件の影響を受ける. 第107回日本畜産学会大会(東京都). 2007. (*九州沖縄農研・**東北農研)
- d-05. 橋爪 力*・武田 恵*・鈴木佐衣子*・野中寿美恵*・粕谷悦子**・桑山秀人***・鈴木裕之: ウシグレリンによるウシ下垂体前葉細胞からのGH分泌特性. 第107回日本畜産学会大会(東京都). 2007. (*岩手大農・**生物研・***帯畜大)
- d-06. 鈴木裕之・熊井智美²⁾・松崎正敏: ブタ卵母細胞の細胞骨格の形成に及ぼす冷却の影響. 第48回日本哺乳動物卵生学会大会(甲府市). 2007.
- d-07. 浅野美香³⁾・松崎正敏・鈴木裕之・豊川好司: 切断長および添加物の違いがナガイモ加工屑サイレージの品質に及ぼす影響. 第57回東北畜産学会大会(鶴岡市). 2007.
- d-08. Kabashima, K., Matsuzaki, M. and Suzuki, H.: Both microtubules and microfilaments mutually control the distribution of mitochondria in hamster 2-cell embryos. Fourth Canada-Japan Bilateral Workshop on Human Reproduction and Reproductive Biology, Hirosaki, 2007.
- d-09. Wallace, J.M.*, Milne, J.S.*, Matsuzaki, M. and Aitken, R.P.*: Attenuated uterine blood flow is an early defect in growth-restricted pregnancies induced by overnourishing adolescent dams. Aspen Perinatal Biology Symposium, Aspen, Colorado, USA, 2007. (*Rowett Research Institute)
- d-10. 神谷 充*・松崎正敏・折戸秀樹*・神谷裕子*・常石英作*: 哺乳期の栄養摂取条件が乳雄哺乳子牛の初期成長に及ぼす影響. 第70回九州農業研究発表会(鹿児島市). 2007. (*九州沖縄農研)
- d-11. 常石英作*・折戸秀樹*・神谷 充*・松崎正敏・服部育男*: 甘夏ミカン粕サイレージを用いた経産牛肥育. 第70回九州農業研究発表会(鹿児島市). (*九州沖縄農研)
- d-12. 神谷 充*・松崎正敏・折戸秀樹*・神谷裕子*・常石英作*: 哺乳期における代用乳給与量が乳雄子牛の成長と臓器・組織重量に及ぼす影響. 第108回日本畜産学会大会(岡山市). 2007. (*九州沖縄農研)
- d-13. 松崎正敏・神谷 充*・折戸秀樹*・神谷裕子*・常石英作*・鈴木裕之: 子牛への代用乳増給は内分泌性IGF-I作用を促進する. 第108回日本畜産学会大会(岡山市). 2007. (*九州沖縄農研)
- e-1. 松崎正敏・柴 伸弥*・常石英作**: グルココルチコイドによる胎子の成熟促進機構の解明と新生子牛の生存率向上技術の開発. 農林水産省農林水産技術会議事務局研究成果444「体細胞クローン動物安定生産技術の確立研究」127-132. 2007. (*東北農研・**九州沖縄農研)

1) 佐藤 学 現在はIVF大阪

2) 熊井智美 現在は伊藤ハム株式会社

3) 浅野美香 現在は株式会社ユニバース

環境生物学講座

植物病理学研究室

- a-01. Tanaka, K. and Hosoya, T. ^{*1}: Some new records of Loculoascomycetes from Yakushima Island, Southern Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. **B 32**: 151-160. 2006.
- a-02. Hosoya, T.^{*1} and Tanaka, T.: Ascomycetes and anamorphic fungi collected from Yakushima Island, Southern Japan. Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. **B 33**: 47-54. 2006.
- a-03. Yang, Y.^{*2}, Wang, H.^{*2}, Guo, R.^{*2}, Cheng, Z.^{*2}, Li, S.^{*2} and Sano, T.: First Report of Hop stunt viroid in Apricot in China. Plant Dis. **90**: 828. 2006.
- a-04. Guo, R.^{*2}, Sano, T., Cheng, Z.^{*2} and Li, S.^{*2}: Detection of Australian grapevine viroid in a grapevine more than 100 years old in Xinjiang, China. Plant Pathology **56**: 339. 2007.
- a-05. Yang, Y.^{*2}, Wang, H.^{*2}, Cheng, Z.^{*2}, Sano, T. and Li, S.^{*2}: First report of Hop stunt viroid from plum in China. Plant Pathology **56**: 339. 2007.
- a-06. Cohen, O.^{*3}, Batuman, O.^{*3}, Stanbekova, G.^{*3}, Sano, T., Mawassi, M.^{*3} and Bar-Joseph, M. ^{*3}: Construction of a multiprobe for the simultaneous detection of viroids infecting citrus trees. Virus Genes **33**: 287-292. 2006.
- a-07. Yamamoto H.^{*4} and Sano, T.: An epidemiological survey of Chrysanthemum chlorotic mottle viroid in Akita Prefecture, as a model region in Japan. J. Gen. Pl. Pathol. **72**: 387-390. 2006.
- a-08. Narumi-Saito, T., Hosoya, T.^{*1}, Sano, T. and Harada Y.: *Nervostroma*, gen. nov. In the Sclerotiniaceae, the teleomorph of *Cristulariella*, and *Hinomyces* aman. gen. nov. to accommodate the anamorph of *Grovesinia*: reassessment of the genus *Cristulariella*. Mycoscience **47**: 351-359. 2006.
- a-09. Yaegashi, H.^{*5}, Isogai, M.^{*6}, Tajima, H., Sano, T. and Yoshikawa, N.^{*6}: The combinations of the two amino acids (Ala40 and Phe75 or Ser40 and Tyr75) in the Coat Protein of apple chlorotic leaf spot virus are crucial for infectivity. J. Gen. Virol. **88**: 2611-2618. 2007.
- d-01. 田中和明・細矢 剛^{*1}: *Discosia* 属のテレオモルフについて. 日本菌学会第51回大会 (2007年5月) つくば市
- d-02. 米澤洋朗・田中和明・細矢 剛^{*1}: 屋久島において採集された *Piricauda* 類似菌について. 日本菌学会第51回大会 (2007年5月) つくば市
- d-03. Morakotkarn, D.^{*7}, Tanaka, K., Okane, I.^{*15}, Kawasaki, H.^{*7} and Seki, T.^{*7}: Molecular studies and morphological characters of *Shiraia bambusicola* and *Shiraia*-like isolated from bamboo of Japan. Annual meeting of the Mycological Society of Japan, Tsukuba University, May 27, 2007.
- d-04. 佐藤玄樹・田中和明・畠山 聡・原田幸雄: 日本各地で採集された *Pseudolachnella* 属の3新種について. 日本菌学会第51回大会 (2007年5月) つくば市
- d-05. 細矢 剛^{*1}・田中和明・原田幸雄: イチョウ葉に発生する *Lambertella* 属の一未記載種. 日本菌学会第51回大会 (2007年5月) つくば市
- d-06. 猫塚修一^{*8}・兼松聡子^{*9}・田中和明・原田幸雄・佐野輝男: ブルーベリーに発生した日本新産種 *Valdensia heterodoxa*. 日本菌学会第51回大会 (2007年5月) つくば市
- d-07. 田中和明: プレオスポラ目の分類. 菌学教育研究会, 菌類の多様性と分類前期講座, 菌学教育研究会筑波センター (2007年6月) つくば市
- d-08. 長岐正彦^{*10}・葛西愛美^{*10}・佐野輝男・西野徳三^{*10}・古山種俊^{*10}: イソプレノイド類の植物病原菌に対する抗ウイルス活性, 平成18年度化学系協会東北大会 (2006年9月)
- d-09. 長岐正彦^{*10}・葛西愛美^{*10}・佐野輝男・西野徳三^{*10}・古山種俊^{*10}: イソプレノイド類の植物病原菌に対する抗ウイルス活性, 第45回日本薬学会東北支部大会 (2006年10月)
- d-10. 浦崎直也^{*11}・河野伸二^{*11}・向井博之^{*12}・上森隆司^{*12}・武田 理^{*12}・佐野輝男: 等温遺伝子増幅法 (ICAN法) によるカンキツグリーニング病細菌 '*Candidatus Liberibacter asiaticus*' の検出, 平成19年度日本植物病理学会大会 (2007年3月) 宇都宮市
- d-11. 磯野清香・種田晃人^{*13}・佐野輝男・近藤賢一^{*14}・飯島章彦^{*14}: 日本の栽培リンゴから検出された Apple dimple fruit viroid (ADFVd), 平成19年度日本植物病理学会大会 (2007年3月) 宇都宮市
- d-12. 佐野輝男・松本慧悟・磯野清香・辻 雅晴・田中和明・近藤賢一^{*14}・飯島章彦^{*14}: リンゴゆず果ウイロイドーホップ分離株とーリンゴ分離株の同一性, 平成19年度日本植物病理学会大会 (2007年3月) 宇都宮市
- d-13. 八重樫元^{*5}・磯貝雅道^{*6}・佐野輝男・吉川信幸^{*6}: リンゴクロロティックリーフスポットウイルス外被タンパク質の40番と75番のアミノ酸の組み合わせ (AとFまたはSとY) がウイルスゲノムRNAの蓄積に必須である, 平

成19年度日本植物病理学会大会（2007年3月）宇都宮市

- d-14. 猫塚修一*8・兼松聡子*9・原田幸雄・田中和明・佐野輝男：日本新産種 *Valdensia heterodoxa* によるブルーベリーバルデンシア葉枯病の発生（新称）. 平成19年度日本植物病理学会大会（2007年3月）宇都宮市
- d-15. 忠 英一*16・原田幸雄・佐野輝男・伊藤（川口）陽子*5・成田恵美子*16・杉山 悟*16：ルリタマアザミ茎腐小粒菌核病（新称）の発生. 平成19年度日本植物病理学会大会（2007年3月）宇都宮市
- d-16. 伊藤（川口）陽子*5・飯野雅崇・田川雅也・佐野輝男：ホップ矮化ウイルス（HSVd）分離株の多様性と宿主適応について. 平成19年度日本植物病理学会東北部会（2007年9月）秋田市
- d-17. 崔海東・山本英樹*4・佐野輝男：日本のキク品種におけるキククロロティックモットルウイルスの病徴. 平成19年度日本植物病理学会東北部会（2007年9月）秋田市
- d-18. 八重樫元*5・磯貝雅道*6・佐野輝男・吉川信幸*6：リンゴクロロティックリーフスポットウイルス外被タンパク質（CP）の2箇所のアミノ酸の組み合わせ（Ala40とPhe75またはSer40とTyr75）は *Nicotiana occidentalis* でのCPの安定性に重要である. 平成19年度日本植物病理学会東北部会（2007年9月）秋田市
- e-01. 宇野忠義・佐野輝男・田中和明：ニュージーランドのリンゴ生産と病虫害防除—リンゴ火傷病とオタゴ大学訪問記録— 弘前大学学術報告 9:80-90, 2006.
- f-01. 佐野輝男：ウイルスの生物学—最近の話題, 岡山県植物病理研究会 講師（2006年12月）倉敷市
- f-02. 佐野輝男：ウイルス, ウィロイドの遺伝子多様性の解析とその利用, 山形植物防疫懇談会 講師（2006年12月）鶴岡市
- f-03. 佐野輝男：ホップの病害について, 全国ホップ生産者組合技術研修会 講師（2007年7月）大仙市

*1：国立科学博物館

*2：中国農業科学院植物保護研究所

*3：イスラエル・ボルカニセンター

*4：秋田県農技セ農試

*5：岩手連大

*6：岩手大農

*7：大阪大学生物工学国際交流センター

*8：岩手県農研センター

*9：果樹研りんご

*10：弘前大学理工学部

*11：沖縄農研

*12：タカラバイオ

*13：弘前大理工

*14：長野果樹試

*15：製品評価技術基盤機構（NBRC）

*16：青森県農林総研フラワーセンター

昆虫学・進化生態学研究室

- a-01. Kinjoh, T., Kaneko, Y., Itoyama, K., Mita, K., Hiruma, K., and Shinoda, T. (2007). Control of juvenile hormone biosynthesis in *Bombyx mori*: cloning of the enzymes in the mevalonate pathway and assessment of their developmental expression in the corpora allata. *Insect Biochem. Mol. Biol.* **37**, 808-818.
- a-02. Hiruma, K., and Riddiford, L.M. (2007). The coordination of the sequential appearance of MHR4 and dopa decarboxylase during the decline of the ecdysteroid titer at the end of the molt. *Mol. Cell. Endocrinol.* doi: 10.1016/j.mce.2007.07.002. In Press.
- d-01. Hiruma, K. (2006). Regulation of enzymes involved in juvenile hormone biosynthesis. The 54th Annual Meeting of the Entomological Society of America. December 10-13, 2006. Indianapolis, USA（招待講演）.
- d-02. Keshan, B., Hiruma, K., and Riddiford, L.M. (2006). Differential regulation of ecdysone-induced early gene E75 by juvenile hormone during molting and metamorphosis in the tobacco hornworm, *Manduca sexta*. The 54th Annual Meeting of the Entomological Society of America. December 10-13, 2006. Indianapolis, USA（招待講演）.
- d-03. Keshan, B., Hiruma, K., and Riddiford, L.M. (2007). The alteration in the expression level of ecdysteroid-induced early gene, E75, by juvenile hormone. Regional Symposium on Current Research Thrust in Animal

- Sciences. March 15 -16, 2007. North-Eastern Hill University, India.
- d-04. 比留間潔, Truman, J.W., Champlin, D.T., Riddiford, L.M. (2007). 成虫原器の形成と成長に及ぼす幼若ホルモンの役割. 日本応用動物昆虫学会第51回大会. 2007年3月27-29日.
- d-05. 金児雄, 比留間潔 (2007). ドーパミンを介したJH生合成制御機構の解析. 日本応用動物昆虫学会第51回大会. 2007年3月27-29日.
- d-06. 金城輝則, 金児雄, 比留間潔, 篠田徹郎 (2007). カイコのアラタ体における転写因子の発現解析ならびにホルモン制御. 日本応用動物昆虫学会第51回大会. 2007年3月27-29日.
- d-07. 村松大輔, 金城輝則, 金児雄, 比留間潔 (2007). カイコ皮膚の培養系における幼虫-蛹コミットメントの制御. 日本応用動物昆虫学会第51回大会. 2007年3月27-29日.
- d-08. 横山拓彦, 比留間潔, 富田秀一郎 (2007). 転写因子BHR3とBHR4カイコの発育と変態に及ぼす役割-遺伝子組み換えカイコの作成. 日本応用動物昆虫学会第51回大会. 2007年3月17-29日.
- d-09. Hiruma, K., Kaneko, Y., Kinjoh, T., and Shinoda, T. (2007). Regulation of juvenile hormone biosynthesis by the corpora allata in *Bombyx mori*. 9th International Conference on Juvenile Hormone. August 5-10, 2007. York, England.
- d-10. Kaneko, Y., and Hiruma, K. (2007). Dopamine is a regulator of juvenile hormone biosynthesis by the corpora allata in *Bombyx mori*. 9th International Conference on Juvenile Hormone. August 5-10, 2007. York, England.
- d-11. Truman, J.W., Koyama, T., Suzuki, Y., Hiruma, K., and Riddiford, L.M. (2007). The morphostatic role of juvenile hormone and its interaction with nutrient-dependent signaling. 9th International Conference on Juvenile Hormone. August 5-10, 2007. York, England.
- d-12. 城田安幸: Anti-tumor effects of *Malus domestica* (7) The apple juice with immature fruits decreases blood sugar. 「りんご(*Malus domestica*)の抗腫瘍効果(7)未熟果実入りのジュースは血糖値を下げる」. 日本癌学会第66回総会. 2007.
- d-13. 城田安幸・加藤 彰・松井佳之・井戸川基規・金子悠太: 無農薬リンゴ園の害虫管理(3), 2006年度大発生したミダレカクモンハマキに対する交信攪乱法の効果. 第51回日本応用動物昆虫学会大会, 2007.
- d-14. 城田安幸: 進化は実験的に確かめられるか—空飛ぶ目玉クワイコを26年間選択し続けて. 日本昆虫学会第67回大会, 2007.
- d-15. 城田安幸: 目玉模様の起源と進化 The origin of Eyespot by Means of Artificial Selection, シンポジウム「色素細胞研究の新たな試み—遺伝子と形態学からのアプローチ New Attempt in Pigment Cell Biology-An Approach from Genetic and Morphological Viewpoints」. 日本動物学会第78回大会, 2007.
- f-01. 城田安幸: 免疫力を高める, 無農薬未熟果実入りリンゴジュース. 農林水産省主催, アグリビジネス創出フェア2006 (ブース展示及びプレゼン発表), 2006.
- f-02. 城田安幸: 五十年後の十五のころ. 弘前市 中弘南地区PTA定期総会 基調講演, 2007.

動物生態学・野生生物管理学研究室

- a-01. 泉 完・矢田谷健一・東 信行・工藤 明・加藤 幸: 自然河川流下水を用いたスタミナトンネルによるオイカワの突進速度に関する現地実験, 水工学論文集 **51**:1285-1290, 2007.
- a-02. 泉 完・伊東竜太・矢田谷健一・東 信行: 岩木川取水堰の全面越流型階段式魚道における魚類等の遡上と水理特性. 農業土木学会論文集 **245**巻, 55-64, 2006.
- b-01. 佐原雄二: メダカの章 p.129-154. 内山りゅう(編)今絶滅の恐れがある水辺の生き物たち. 山と溪谷社. 2007.
- b-02. 佐原雄二(編): 青森県のフィールドから—野外動物生態学への招待. 弘前大学出版会. 73pp. 2007.
- c-01. 佐原雄二: 「シナイモツゴの保護活動」および「ビオトープとその役割」 p.49-52. 希少野生生物保護・保全対策報告書—青森県の希少野生生物の生息状況と保護・保全活動の実例—. 青森県. 2007.
- d-01. 浅原宏子・佐原雄二: 低酸素条件に対する魚類の反応. 第54回日本生態学会大会, 2007.
- d-02. 石井 翔・佐原雄二: 津軽平野におけるカエル類の生息分布. 第54回日本生態学会大会, 2007.
- d-03. 佐藤晋太郎・佐原雄二: 感潮域に生息するメダカの生態. 第54回日本生態学会大会 2007.
- d-04. 南保亜哉児・佐原雄二: 溜池における繁殖期のヨシゴイの採餌生態. 第54回日本生態学会大会 2007.
- d-05. 伊藤 忍・五十嵐勇気・石井健太郎・東 信行: 水温上昇に伴うカジカ大卵型 (*Cottus pollux*) の成長特性の変化 応用生態工学会 第11回研究発表会, 2007.
- d-06. 渡邊光一・佐藤孝司・東 信行: 青森県における小河川魚類の群集構造変化とその要因について, 応用生態工学会 第11回研究発表会, 2007.

- d-07. 伊藤 忍・太田昌志・東 信行：メダカ (*Oryzias latipes*) のサイズ選択的越冬死亡, 2007 年度日本魚類学会年会, 2007.
- d-08. 鈴木晶子・佐原雄二 溜池におけるカワセミ (*Alcedo atthis*) の採餌生態. 日本鳥学会 2007 年度大会. 2007.
- d-09. 高谷 了・佐原雄二 育雛期のカンムリカイツブリ (*Podiceps cristatus*) の餌利用. 日本鳥学会 2007 年度大会. 2007.
- f-01. 東 信行：第11回水シンポジウム 2006 in みやぎ 報告書 210pp, 2007.
- f-02. 東 信行：りんご園とフクロウ, 野鳥 no.704, 15, 2007.
- f-03. 東 信行：りんご園に棲みついたフクロウ, Herend Owl Club 通信 No.4, 2007.

地域環境科学科

地域環境工学講座

- a-01. 泉 完・伊東竜太*・矢田屋健一**・東 信行：岩木川取水堰の全面越流型魚道における魚類等の遡上と水理特性，農業土木学会論文集，**No.245**：55-64，2006. (*森の中の果樹園，**㈱建設技術研究所東北支社)
- a-02. 泉 完・矢田谷健一*・東 信行・工藤 明・加藤 幸：自然河川流下水を用いたスタミナトンネルによるオイカワの突進速度に関する現地実験，水工学論文集，**No.51**：171-178，2007. (*㈱建設技術研究所東北支社)
- a-03. 泉 完・矢田谷健一*：河川における自然誘導式スタミナトンネルを用いた野生魚の突進速度に関する実験，農業土木学会論文集，**No.247**：155-156，2007. (*㈱建設技術研究所東北支社)
- a-04. 佐々木長市・松山信彦・佐瀬 隆*・殿内暁夫Mitra B.K.・松岡嗣彦**・加藤 幸・野田香織・本田和茂：白神山地の土壌に関する研究(4)，白神研究，**第4号**，28-34，2007.
(*：北方ファイトリス研究室 ** 藤里町白神ガイド協会)
- a-05. B.K.Mitora, C.Sasaki, K.Enari*, N.Matuyama, and S.Pongpattanasiri**. Groundwater Quality in Sand Dune Area of Northwest Honshu Island in Japan. Journal of Agronomy **6 (1)**：81-87, 2007. (*Tohoku Institute of Technology **Naresuan University)
- a-06. B.K.Mitora, C.Sasaki, K.Enari*, N.Matuyama, and M.Fujita*. Suitability Assessment of shallow groundwater for agriculture in sand dune area of Northwest Honshu Island, Japan, Applied Ecology and Environmental Research **5 (1)**：177-188. 2007. (**Tohoku Institute of Technology)
- a-07. 加藤 幸・片山寿伸*：映像による栽培履歴情報の活用と情報が生産者・消費者に及ぼす効果について ― 食の安全・安心とトレーサビリティ情報の利用に関する研究―，農業土木学会論文集**74 / 6**，169-175，2006. 10. (*片山りんご有限公司・日本GAP協会)
- d-01. 工藤 明・管 化冰・泉 完：白神山地暗門川流域からの流出負荷，平成19年度農業土木学会大会講演企画セッション11-4，2007. 8.
- d-02. 泉 完・山本泰之*・神山公平*・矢田谷健一：自然河川流下水を用いたスタミナトンネルによるヤマメ稚魚の突進速度について，平成18年度農業土木学会応用水理研究部会講演集，1-6，2006. 12. (*弘前大学農学研究科)
- d-03. 藤原正幸・秋本麻衣・泉 完：VOF法を用いたアイスハーバー型魚道の三次元流況シミュレーション，平成19年度農業土木学会大会講演要旨，160-161，2007. 8.
- d-04. 泉 完・山本泰之*・神山公平*：高流速条件における現地のスタミナトンネルを用いたウグイの突進速度，平成19年度農業土木学会大会講演要旨，552-553，2007. 8. (*弘前大学農学研究科)
- d-05. 泉 完・神山公平*・山本泰之*：岩木川取水堰の全面越流型階段式プール内における魚類等の遊泳行動について，平成19年度農業土木学会大会講演要旨，554-555，2007. 8. (*弘前大学農学研究科)
- d-06. 佐々木長市・大川晋哉・武田嘉彦*・佐瀬隆**：弥生水田土の間隙構造と物理性，平成19年度農業土木学会講演要旨，786-787，2007. (*田舎館埋文センター，**北方ファイトリス研究室)
- d-07. 角野三好・吉田和史*・五十嵐悠也**，ヘルショーモデルを用いた地下水流動の可視化に関する研究，農業土木学会東北支部大会，2006. 10. (*福島県土地改良事業団体連合会，**弘前大学農学研究科)
- d-08. 角野三好・五十嵐悠也*ほか，ヘルショーモデルによる傾斜遮水ゾーン型フィルダムの浸潤線について(3)，農業土木学会大会，2007. 8. (*弘前大学農学研究科)
- d-09. 加藤 幸・谷口 建・佐藤正彦*，ポッドキャストを利用した農村地域からの情報発信の試み，農業土木学会大会，2007. 8. (*NPO法人尾上蔵保存利活用促進会)
- e-01. 万木正弘 ほか，循環型社会構築に向けた水利構造物の維持管理，東北農政局農業農村整備推進事業推進方法検討業務報告書，113-126，2007. 3.
- e-02. 工藤 明：新城下堰浄化施設の効果検証報告書，青森県東地方農林水産事務所，全44頁，2007. 3.
- e-03. 工藤 明：環境負荷軽減水管理技術確立調査報告書 (I，II)，東北農政局資源課，全24頁，全28頁，2007. 3.
- e-04. 工藤 明：広域基盤整備計画調査「岩木川地域」報告書，東北農政局北奥羽土地改良調査管理事務所，全33頁，2007. 3.
- e-05. 泉 完：岩木川左岸幹線水路落差工の流水音調査報告書，全47頁，2007. 3.
- e-06. 角野三好，加藤幸ほか，平成18年度東北農政局管内農業農村整備事業推進方策検討業務報告書，社団法人農業土木学会，27-41，2007. 3.
- e-07. 角野三好，加藤幸，平成18年度屏風山地域の地下水流動調査報告書，青森県，1-19，2007. 3.

- f-01. 万木正弘, 生コンセミナー「環境が変化する中で, だが, どこで, なにを」, コンクリート工学, Vol.45, No.10, 92-94, 2007. 10.
- f-02. 工藤 明:河川環境への負荷軽減に関する基礎的研究, 第44回全国高等学校農業土木教育研究協議会招待講演, 会報No.43, 10-22, 2007. 8.

地域環境計画学講座

- a-01. 藤崎浩幸:安全性の高い野菜に対する消費者意識—みやぎ生協「産直野菜」に対する来店者意識調査—, 弘前大学農学生命科学部学術報告, 9: 91-96, 2006
- a-02. Ghimire, S. K. and Higaki, D.: Rates, Processes and hazard evaluation of streambank erosion:A case study in the Siwalik Hills of the Nepal Himalaya, 地形27(3): 337-347, 2006.
- a-03. 檜垣大助・八木浩司・千木良雅弘・丸井英明・山崎孝成:斜面災害の管理—安全なパキスタンを目指して:2005年10月8日震災からの確実な復興のための災害リスク軽減—に関するセミナーの開催, 日本地すべり学会誌, 43(6) 63-64, 2007.
- d-01. 川田真理・谷口 建・石川 毅:地域住民の生活に関するトリップ先とバス路線について, 農業土木学会東北支部講演要旨集, 196-199, 2006. 10.
- d-02. 藤崎浩幸・中島大介・谷口 建:岩木山登山道のゴミ, 季刊地理学, 58-3, 165-166, 2006. (東北地理学会春季大会一般研究発表)
- d-03. 藤崎浩幸, 鶴谷拓馬, 三塚 治, 谷口 建:青森県津軽地域における稲ワラ利用の現状と課題, 農村計画学会学術研究発表会, 2007. 4.
- d-04. Higaki, D.: Mitigation measures against landslide disasters-cases of Japan and Nepal Himalaya. JICA, Nippon Koei Co. Ltd. and Japan Landslide Society: International seminar on Slope Disaster Management-Envisioning Safer Pakistan Disaster Risk Reduction for Safety Recovery from 8th Oct. 2005 Earthquake Damage, Islamabad, 2006.
- d-05. 檜垣大助:応用地形学的アプローチによる侵食対策の計画—ネパールにおける事例, 日本地形学連合2007年春季大会, 京都
- d-06. 三島佳恵・檜垣大助・牧田 肇:白神山地の地すべりの地生態学的研究, 東北地理学会2007年度春季大会, 仙台
- d-07. 中村朝日・檜垣大助・牧田 肇:白神山地における登山道荒廃と地形条件, 東北地理学会2007年度春季大会, 仙台
- d-08. 檜垣大助:ヒマラヤにおける持続可能な土砂災害対策を考える—応用地形学的アプローチと住民参加—, 第46回日本地すべり学会研究発表会講演集, 251-254, 2007.
- d-09. ガウリ・マハルジャン・高橋照夫:画像処理を利用したイネ病気の病状部分の抽出, 農業機械学会東北支部講演要旨 33-34, 2007. 8.
- d-10. ガウリ・マハルジャン・高橋照夫:画像特徴を利用した植物病名の検索システムに関する研究—イネの病状形状の特徴抽出と分類法に関する検討—, 農業環境工学関連学会2007年合同大会講演要旨集, CD-ROM, 2007. 9.
- e-01. 谷口 建・野澤俊介:グリーン・ツーリズム情報発信コアセンター・地域サテライトネットワークモデル構築研究, 平成18年度青森県農林水産部構造政策課委託研究報告書, 2007.
- e-02. 谷口 建・藤崎浩幸:弘前市のグリーン・ツーリズムに関する調査研究, 平成18年度弘前市委託研究報告書, 2007.
- f-01. 森屋 洋・高橋明久・阿部真郎・檜垣大助:秋田県砥沢・谷地地すべりににおける地表・地中変位計測の諸問題, 平成19年度日本地すべり学会シンポジウム「活動中の地すべり変位計測における諸問題」講演集, 17-20, 2007.
- f-02. 檜垣大助:地すべり対策における環境への配慮, 大地, 47, 13-16, 2007.

地域資源経営学講座

- a-01. 森 久綱*・泉谷眞実:食品加工残渣の飼料利用におけるリサイクル経路に関する考察—ビール製造副産物を対象として—, 流通 (19): 120-131, 2006. (*三重大学)
- a-02. 宇野忠義:リンゴ果汁輸入の急増が日本のリンゴ経営に与えた影響—リンゴ過剰恐慌輸出によってもたらされた経営危機—. 弘前大学農学生命科学部学術報告 (9): 68-79, 2006.
- a-03. 宇野忠義・佐野輝男・田中和明:ニュージーランドのリンゴ生産と病虫害防除—リンゴ火傷病とオタゴ大学訪問記録—. 弘前大学農学生命科学部学術報告 (9): 80-90, 2006.
- b-01. 杉村泰彦*・泉谷眞実:青果物卸売市場における売れ残り品発生の実態とその発生要因, 酪農学園大学農業経済学

- 科編『農畜産業の経済分析』酪農学園大学エクステンションセンター：163-174, 2007. (*酪農学園大学)
- b-02. 王 振興*・神田健策編：中日苹果苹果産業技術研究.中国農業科学技術出版社：1-174, 2007. (*中国陝西省果業局長)
- b-03. 渋谷長生：「近代農法の成果と限界」. 日本村落研究学会編『むらの資源を研究する』農山漁村文化協会：125-131, 2007.
- d-01. 神田健策：広域地方都市の地域産業—農業サイドの視角から—. 日本地域経済学会第18回福島大会地域シンポジウム, 2006. 11.
- d-02. 神田健策・李 中華*・成田拓未*：中国農民專業合作社法制定の背景と意義. 日本農業経済学会（沖縄）, 2007. 3. (*青島農業大学)
- d-03. 宋 曉凱・神田健策：中国におけるりんご旧産地の現状と再生の課題～遼寧省大連市の事例. 東北農業経済学会, 岩手大学, 2007. 8.
- d-04. 大橋 治・神田健策：地域農業づくりと農協事業—JA相馬村の実践—. 東北農業経済学会, 岩手大学, 2007. 8.
- d-05. 王 江・神田健策：中国農村信用合作社の歴史的格と農村金融の課題—遼寧省葫蘆島市農村信用合作社連合社と吉林省梨樹県閭家村百信農村資金互助社の事例—. 東北農業経済学会, 岩手大学, 2007. 8.
- e-01. 宇野忠義：青森県における農業生産法人の動向と事例分析. 横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 研究代表者 田代洋一 平成16～18年度科学研究費補助金研究成果報告書. 地域農業再編の担い手としての農業生産法人の役割に関する実証研究, 2007. 2-44.
- e-02. 宇野忠義：青森県の「売り込みできる米づくり」の取り組み. 秋田県立大学生物資源科学部 研究代表者 佐藤了, 平成16～18年度科学研究費補助金研究成果報告書. 米産業の競争構造とマーケティング対応型産地再編戦略に関する研究. 2007. 160-167.
- e-03. 神田健策・宋 曉凱・大橋 治：中国におけるりんご産業の発展と農民合作組織の課題. 中国と日本におけるりんご産業の棲み分け戦略に関する基礎的調査研究（科学研究費報告書 代表黄孝春）, 35-45 頁, 2007. 3.
- e-04. 大橋 治・神田健策：鯉ヶ沢町「まちづくり」政策の現段階と展望. 神田健策他：持続可能な地域社会形成と地域資源の活用—鯉ヶ沢町との連携事業推進—. 弘前大学学長指定重点研究. 1-44 頁, 2007. 6.
- e-05. Hugosson, Alvar Olof*・神田健策・大高研道**：地域社会の持続的発展と非営利・協同（社会的経済）の実践—スウェーデン・イエムトランド地域の事例研究—. 非営利・協同総合研究所いのちとくらし研究助成金研究成果報告書. 1-56 頁, 2007. 9.
- e-06. 武田共治・谷田親彦：弘前大学4年生の21世紀教育に対する評価の年度・学部別検討. 21世紀教育フォーラム(2), 17-27, 弘前大学21世紀教育センター, 2007. 3.
- f-01. 泉谷眞実：りんご未利用資源のリサイクル戦略. 弘前大学農学生命科学部・藤崎農場公開講座「りんごを科学する」, 2006年12月4日, 於：青森県・板柳町.
- f-02. 宇野忠義：リンゴ火傷病, 問題多い検疫緩和. 日本農業新聞, 2006, 10. 21.
- f-03. 宇野忠義：リンゴ果汁輸入の急増が日本のリンゴ経営に与えた影響. 平成19年度 全国中山間地域振興対策協議会東北支部協議会定期総会 講演資料. 平川市, 2007. 6. 21, 1-8.
- f-04. 宇野忠義：リンゴ果汁輸入急増下の経営危機と地域振興. 弘前大学教育学部 平成19年度社会教育主事講習講義要録, 2007. 7. 25, 1-10.
- f-05. 神田健策：日本・青森県におけるりんご産業の現状と発展戦略. 日中りんご産業技術交流フォーラム, 弘前大学, 2006. 10.
- f-06. 神田健策：21世紀の日本とアジアの関係について. 萊陽農學院學術フォーラム, 中国青島市, 2006. 10.
- f-07. 神田健策：三農問題と協同組合の役割. 山東農業大学學術フォーラム, 中国泰安市, 2006. 10.
- f-08. 神田健策：座長解題 地産地消と地域農業振興. 農業市場研究. 第15巻第2号, 日本農業市場学会, 1-2 頁, 2006. 12.
- f-09. 神田健策：時事随想 三農問題 中国が学ぶ相馬村農協. 陸奥新報. 2007. 1. 28.
- f-10. 神田健策：時事随想 地域間格差 住民を主人公とした自治体. 陸奥新報. 2007. 3. 4.
- f-11. 神田健策：島善郷と弘前大学農学部. 五十年史編集委員会：五十年史. 弘前大学農学生命科学部. 126-131 頁. 2007. 3.
- f-12. 神田健策：時事随想 GAP 認証 安全性の保証とりんご輸出. 陸奥新報. 2007. 4. 1付.
- f-13. 神田健策：時事随想 日本国憲法 簡単にええられぬ最高法規. 2007. 4. 29付.
- f-14. 神田健策：時事随想 運営交付金 科研費実績による配分に異論. 2007. 6. 3付.
- f-15. 神田健策：時事随想 経済連携協定 国内農業は不要か. 2007. 7. 8付.
- f-16. 神田健策：時事随想 美しい村連合 県内からの参加を望む. 2007. 8. 12付.
- f-17. 神田健策：時事随想 栗山町議会基本条例 討論の広場である議会. 2007. 9. 16付.

- f-18. Kensaku KANDA; The Strategies of Apple Production and Marketing in Japan and in Aomori Prefecture], A Selected Thesis of The International Forum On Apple Industry, pp.246-249, Shaanxi Provincial Fruit Administrative Bureau, China, 2007. 9. 28.
- f-19. 渋谷長生：「タイの米生産と米消費の動向」. 米産業の競争構造とマーケティング対応型産地再編戦略に関する研究 研究代表佐藤了 科学研究費研究成果報告書, 122-142頁 平成19年3月.
- f-20. 渋谷長生：津軽在来トウガラシ「清水森ナンバ」が農水省のモデル事業へ. 青森農業改良普及会, あおもり農業 50-51頁 2006. 9.
- f-21. 渋谷長生：青森市のカシス生産の出発点は弘前大学の農場であった. 青森農業改良普及会, あおもり農業 52-53頁 2006. 10.
- f-22. 渋谷長生：弘前大学シニアサマーカレッジ開催が農業観光に示唆するもの. 青森農業改良普及会, あおもり農業 48-49頁 2006. 11.
- f-23. 渋谷長生：農産物地場流通ルート構築を具体的、実践的に考える. 青森農業改良普及会, あおもり農業 52-53頁 2006. 12.
- f-24. 渋谷長生：蓬田村の中学生が考える村活性化案のトップは陸奥湾イルカ観光. 青森農業改良普及会, 青森農業 59-60頁 2007. 1.
- f-25. 渋谷長生：ながいもに関して弘前大学・青森県・全農青森間での連携強化を確認. 青森農業改良普及会, あおもり農業 52-53頁 2007. 2.
- f-26. 渋谷長生：韓国は今よもぎブーム. 青森農業改良普及会, あおもり農業 62-63頁 2007. 3.
- f-27. 渋谷長生：自治体の農業振興計画づくりの根本問題を考える. 青森農業改良普及会, あおもり農業 102-103頁 2007. 5.
- f-28. 渋谷長生：青森市浪岡商工会がミニチュアりんごの樹の栽培・販売に取り組む. 青森農業改良普及会, あおもり農業 94-96頁 2007. 6.
- f-29. 渋谷長生：グリーンツーリズム関連NPO法人と学生ボランティア活動. 青森農業改良普及会, あおもり農業 86-87頁 2007. 7.
- f-30. 渋谷長生：青森県特産地鶏「青森シャモロック」の生産者に聞く. 青森農業改良普及会, あおもり農業 88-89頁 2007. 9.
- f-31. 渋谷長生：農産物の消費者ニーズに合わせた販売戦略. 農村通信社, 農村通信 No.718 38-41頁 2007. 9.

生物共生教育研究センター

- a-01. Takuro Kikuchi and Yunosuke Shiozaki : Apple canopies as population of branches : a new concept for measuring tree vigor. Acta Hort 732, 675-680, ISHS 2007.
- a-02. 岩渕伸雄・村山成治・齋藤 司・松山信彦・工藤啓一：低投入型稲作に関する研究，第7報 リンゴジュース搾り粕の施用回数と雑草発生量，日本作物学会東北支部会報 49：23-24, 2006.
- c-01. 塩崎雄之輔：図解 リンゴのせん定 基礎知識1 幼木の枝を切ることの意味．現代農業(7)．206-209, 農文協，東京，2007.
- c-02. 塩崎雄之輔：図解 リンゴのせん定 基礎知識2 切り返しせん定の思い違い．現代農業(8)．228-231, 農文協，東京，2007.
- c-03. 塩崎雄之輔：図解 リンゴのせん定 基礎知識3 間引き剪定で樹はどうなる？ 現代農業(9)．224-227, 農文協，東京，2007.
- d-01. 塩崎雄之輔・三澤智夏・藤田知道・奈良岡久寛・横田裕之：リンゴ半密植栽培主幹形樹の開心形改造に関する研究（続報）．園芸学会東北支部平成19年度大会 研究発表要旨43-44, 2007.
- d-02. 松山信彦・小山内由紀・工藤啓一・村山成治：床土代替資材を用いた場合の水稻苗の特徴，日本作物学会東北支部講演会，2007.
- d-03. 竹内貴広¹・石田祐宣¹・伊藤大雄：リンゴ園におけるCO₂フラックスの解析 ～渦相関法・傾度法・ボーエン比法の比較～．農業環境工学関連学会2007年合同大会講演要旨集，H41, 2007. (¹弘前大学大学院理工学研究科)
- d-04. 伊藤大雄・竹内貴広¹・石田祐宣¹：リンゴ園における傾度法とボーエン比法による蒸発散量の長期観測．農業環境工学関連学会2007年合同大会講演要旨集，H42, 2007. (¹弘前大学大学院理工学研究科)
- e-01. 杉浦裕義・伊藤大雄：果樹園生態系における炭素収支の解明．農林水産省プロジェクト「地球温暖化研究」平成18年度推進会議資料，A1210, 2007.
- f-01. 伊藤大雄：リンゴ園の合理的な水管理．藤崎農場公開講座「りんごを科学する」平成18年度テキスト，7-13, 2006.
- f-02. 塩崎雄之輔：意外と知られていない剪定の話 一切り返し剪定の反応、夏期新梢管理、移植樹の剪定．藤崎農場公開講座「りんごを科学する」平成18年度テキスト．56-63, 2006.
- f-03. 塩崎雄之輔：これからのリンゴの栽培方式を考える．庄原市農協（広島県）講演テキスト．1-8, 2007.
- f-04. 塩崎雄之輔：聴いて得するリンゴのおもしろ雑学．弘前大学シニアサマーカレッジテキスト，弘前大学，2007. 全13頁．2007.
- f-05. 伊藤大雄：地球温暖化とリンゴとコメー青森農業の50年後一．弘前大学シニアサマーカレッジ，弘前大学，2007.
- f-06. 伊藤大雄：地球温暖化と青森県のりんご栽培：りんご王国こうぎょくカレッジ(FMラジオ番組),アップルウェーブ, 2007. 9. 9.